

大学番号 050

注3

設置年度 令和 3年度

計画の区分： 研究科の専攻の設置又は課程の変更

注1

**事前伺い**

滋賀大学大学院 教育学研究科 高度教職実践専攻

注2

## 【事前伺い】 設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人滋賀大学

令和3年5月1日現在

### 作成担当者

担当部局（課）名 総務課

職名・氏名 カチョウ ウエダ キクハル  
課長・上田 菊治

電話番号 0749-27-1003

（夜間） 0749-27-1003

e-mail soumu-c@biwako.shiga-u.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

・大学の設置の場合：「〇〇大学」

・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」

・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」

・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」

・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」

・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」

・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」

・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和3年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

# 目次

教育学研究科

＜高度教職実践専攻＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	12
4. 既設大学等の状況	13
5. 教員組織の状況	15
6. 附帯事項等に対する履行状況等	41
7. その他全般的事項	42

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

国立大学法人滋賀大学

## (2) 大学名

滋賀大学大学院

## (3) 調査対象大学等の位置

〒520-0862

滋賀県大津市平津二丁目5番1号

(〒522-8522 滋賀県彦根市馬場1丁目1番1号)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(フリガナ) 氏名 (現職就任年月)	(フリガナ) 氏名 (現職就任年月)	
学長	(イダ リュウイチ) 位田 隆一 (平成28年4月)		
研究科長	(ジン ナオンド) 神 直人 (令和2年4月)		
専攻長	(キシモト ミノル) 岸本 実 (令和3年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。

(例) 令和2年度に報告済の内容 → (2)

令和3年度に報告する内容 → (3)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載してください。その場合別ファイルを作成し提出してください。
- ・ 様式は、平成29年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和2年度までの5年間）ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
教育学研究科 高度教職実践専攻 教職修士（専門職）	教員養成関係	2年	35人	年次 人	70人		基礎となる学部等 教育学部

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	令和3年度		令和3年度		令和3年度		令和3年度		令和3年度		平均入学定員 超過率	開設年度から 報告年度までの 平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	35人 ( ) [ ]	-	人	人	人	人	人	人	人	人	0.57倍	-	
志願者数	25 ( ) [ ]	-	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )			
受験者数	25 ( ) [ ]	-	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )			
合格者数	22 ( ) [ ]	-	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )			
B 入学者数	20 ( ) [ ]	-	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )			
入学定員超過率 B/A	0.57												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ ( ) 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(( ))書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和3年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和3年度		令和4年度								備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	20 [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
2年次	/		[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
3年次			/		[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )
4年次	/				[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )
計			20 [ - ] ( - )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )

・令和3年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
  - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数 (b)	退学者数 (a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[ ]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和3年度	20 人	0 人	令和3年度	0 人	0 人	
	人	人		人	人	
				人	人	
	人	人		人	人	
				人	人	
	人	人		人	人	
				人	人	
	人	人		人	人	
				人	人	
合計		0 人		0 人	0 人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。
- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
  - 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
  - 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
  - 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数 (a)}}{\text{令和3年度の在学者数 (b)}} = \frac{0}{20} = \boxed{0} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数 (a)}}{\text{令和4年度の在学者数 (b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

- (注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

## 2 授業科目の概要

<教育学研究科 高度教職実践専攻>

### (1) ① 授業科目表

#### 【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	教育課程編成の理論と実践	1前	2			1	2					
	授業実践の探究と教育課程	1前	2				2					
	確かな学力を伸ばす指導と評価	1後	2			1	2					
	メディア活用実践研究	1後	1				1				1	
	滋養の教育課題と指導方法	1後	1			5	1					
	生徒指導・教育相談の理論と実践	1前	2			3						
	ダイバーシティ教育の理論と実践	1後	2				2				2	
	学びの基盤となる学級経営の探究	1後	1				1				1	
	学校経営の理論と実践	1後	1			1	1				1	
	現代社会の課題と教員役割	1前	2			1	1					
	学校教育におけるデータサイエンス	1前	2			2	1				1	
	小計(11科目)	-		18	0	0	10	6	0	0	0	6
学校経営力開発コース	経営課題解決基本実習Ⅰ【※】	1前		1		1	2				1	
	経営課題解決基本実習Ⅱ【※】	1後		3		1	2			1		
	経営課題解決発展実習【※】	2通		2		1	2			1		
	地域協働実習【※】	1前		2		1	1			1		
	教育行政実習【※】	1後		2		1	2			1		
	小計(5科目)	-		0	10	0	2	2	0	0	0	1
教育実践力開発コース	実践課題解決基本実習Ⅰ【※】	1前		1		4	4					
	実践課題解決基本実習Ⅱ【※】	1後		3		4	4					
	実践課題解決発展実習【※】	2通		2		4	4					
	研修開発実習【※】	1前		2		4	3					
	教育委員会実習【※】	1後		2		4	2					
	小計(5科目)	-		0	10	0	4	4	0	0	0	
授業実践力開発コース	実践入門実習【※】	1前		1		8	2					
	授業実践基本実習Ⅰ【※】	1通		2		8	2					
	授業実践基本実習Ⅱ【※】	1通		1		5	4					
	授業実践基本実習Ⅲ【※】	2前		1		8	2					
	授業実践発展実習【※】	2後		2		8	2					
	学校支援実習Ⅰ【※】	1通		1		9	3					
	学校支援実習Ⅱ【※】	1通		1		9	3					
	学校支援実習Ⅲ【※】	1通		1		9	3					
	学校支援実習Ⅳ【※】	2通		1		9	3					
	学校支援実習Ⅴ【※】	2通		1		9	3					
	学校支援実習Ⅵ【※】	2通		1		9	3					

#### 【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	教育課程編成の理論と実践	1前	2			1	2					
	授業実践の探究と教育課程	1前	2				2	1	1			
	確かな学力を伸ばす指導と評価	1後	2			1	2					
	メディア活用実践研究	1後	1				1	0	1		1	
	滋養の教育課題と指導方法	1後	1			5	1	6	0			
	生徒指導・教育相談の理論と実践	1前	2			3						
	ダイバーシティ教育の理論と実践	1後	2				2				2	
	学びの基盤となる学級経営の探究	1後	1				1	0			1	
	学校経営の理論と実践	1後	1			1	1	3	0		0	
	現代社会の課題と教員役割	1前	2			1	1	2	0			
	学校教育におけるデータサイエンス	1前	2			2	1	2	1		2	
	小計(11科目)	-		18	0	0	13	5	0	0	0	6
学校経営力開発コース	経営課題解決基本実習Ⅰ【※】	1前		1		2	1				0	
	経営課題解決基本実習Ⅱ【※】	1後		3		2	1			0		
	経営課題解決発展実習【※】	2通		2		2	1			0		
	地域協働実習【※】	1前		2		2	0			0		
	教育行政実習【※】	1後		2		2	1			0		
	小計(5科目)	-		0	10	0	3	1	0	0	0	0
教育実践力開発コース	実践課題解決基本実習Ⅰ【※】	1前		1		6	4					
	実践課題解決基本実習Ⅱ【※】	1後		3		6	4					
	実践課題解決発展実習【※】	2通		2		6	4					
	研修開発実習【※】	1前		2		6	4					
	教育委員会実習【※】	1後		2		6	2					
	小計(5科目)	-		0	10	0	6	4	0	0	0	
授業実践力開発コース	実践入門実習【※】	1前		1		10	5					
	授業実践基本実習Ⅰ【※】	1通		2		10	5					
	授業実践基本実習Ⅱ【※】	1通		1		7	5					
	授業実践基本実習Ⅲ【※】	2前		1		10	5					
	授業実践発展実習【※】	2後		2		10	5					
	学校支援実習Ⅰ【※】(未開講)	1通		1		9	3					
	学校支援実習Ⅱ【※】(未開講)	1通		1		9	3					
	学校支援実習Ⅲ【※】(未開講)	1通		1		9	3					
	学校支援実習Ⅳ【※】	2通		1		9	3					
	学校支援実習Ⅴ【※】	2通		1		9	3					
	学校支援実習Ⅵ【※】	2通		1		9	3					

		小計(11科目)	—	0	13	0	9	5	0	0	0	
ダイバーシティ教育 基本実習【※】	ダイバーシティ教育 基本実習【※】	1前		2		3	1					1
	特別支援実習【※】	1前		1		1	2	1				1
	フィールドワーク実 習【※】	1通		2		2	2	1				2
	心理アセスメント実 習【※】	2通		1		1	2	1				2
	ダイバーシティ教育 発展実習【※】	2通		4		3	2	1				
小計(5科目)		—	0	10	0	5	2	1	0	0	0	5
各 通 ス	海外連携校実習Ⅰ 【※】	1-2後		1		5	4					1
	海外連携校実習Ⅱ 【※】	1-2後		1		6	3					1
	小計(2科目)	—	0	2	0	6	4	0	0	0	0	1
学 校 経 営 力 開 発 コ ー ス	学校組織マネジメント 研究	1前		2		2						
	学校経営と教育リー ダーシップ	1前		2		1	1					1
	教職員の職能開発シス テムに関する実践的研究	1前		2		1	2					
	カリキュラムマネジ メントと校内研修	1後		2		1	1					
	教育政策・教育行政 の理論と実践	1後		2		1	2					
	学校安全・学校危機 管理に関する実践的 研究	1前		2		1	1					1
	学校と地域の連携協 働に関する実践的研 究	1後		2		1	1					
	教育法規の理論と実 践	1前		2		2						1
	教育実践課題解決研 究Ⅰ(経営)	1前		1		2	2					1
	教育実践課題解決研 究Ⅱ(経営)	1後		1		2	2					1
	教育実践課題解決研 究Ⅲ(経営)	2前		1		2	2					1
	教育実践課題解決研 究Ⅳ(経営)	2後		1		2	2					1
小計(12科目)		—	0	20	0	3	2	0	0	0	0	2
教 育 実 践 力 開 発 コ ー ス	教育方法の開発と実 践研究	1前		2			3					
	メンタリングと校内 研修	1前		2		1	2					
	学校教育のアクセシ ビリティ	1後		2		1	2					
	社会的・職業的自立 を支援する進路指導 とキャリア教育	1後		2		2						
	教育実践課題解決研 究Ⅰ(教育実践)	1前		1		3	3					
	教育実践課題解決研 究Ⅱ(教育実践)	1後		1		3	3					
	教育実践課題解決研 究Ⅲ(教育実践)	2前		1		3	3					
	教育実践課題解決研 究Ⅳ(教育実践)	2後		1		3	3					
小計(8科目)		—	0	12	0	4	3	0	0	0	0	
教 師 の キ ャ リ ア 発 達 と 教 育 実 践	教師のキャリア発達 と教育実践	1前		2		3						
	プログラミング教育 の実践と教材開発	1後		2		3						1
	初等言語教育の理論 と実践	1後		2			2					2
	言語教育実践と教材 開発研究	1前		2								2
	古典教育と教材開発 研究	1前		2								2
	英米文学と英語教科 材開発への応用	1前		2								1
	言語学理論と英語科 教材開発への応用	1後		2								2
	初等社会科教育の理 論と実践	1後		2		1						
	社会科・地理歴史科 教材開発研究	1前		2								4
	社会科・公民科教材 開発研究	1後		2								4

		小計(11科目)	—	0	13	0	11	5	0	0	0	
ダイバーシティ教育 基本実習【※】	ダイバーシティ教育 基本実習【※】	1前		2		3	3					1
	特別支援実習【※】	1前		1		1	3	0				1
	フィールドワーク実 習【※】	1通		2		2	3	0				2
	心理アセスメント実 習【※】	2通		1		1	3	0				1
	ダイバーシティ教育 発展実習【※】	2通		4		6	5	0				
小計(5科目)		—	0	10	0	7	5	0	0	0	0	5
各 通 ス	海外連携校実習Ⅰ 【※】	1-2後		1		5	4					1
	海外連携校実習Ⅱ 【※】	1-2後		1		6	3					1
	小計(2科目)	—	0	2	0	6	4	0	0	0	0	1
学 校 経 営 力 開 発 コ ー ス	学校組織マネジメント 研究	1前		2		2						
	学校経営と教育リー ダーシップ	1前		2		2	0					0
	教職員の職能開発シス テムに関する実践的研究	1前		2		2	1					
	カリキュラムマネジ メントと校内研修	1後		2		2	0					
	教育政策・教育行政 の理論と実践	1後		2		2	1					
	学校安全・学校危機 管理に関する実践的 研究	1前		2		2	0					0
	学校と地域の連携協 働に関する実践的研 究	1後		2		2	0					
	教育法規の理論と実 践	1前		2		2						1
	教育実践課題解決研 究Ⅰ(経営)	1前		1		3	1					0
	教育実践課題解決研 究Ⅱ(経営)	1後		1		3	1					0
	教育実践課題解決研 究Ⅲ(経営)	2前		1		3	1					0
	教育実践課題解決研 究Ⅳ(経営)	2後		1		3	1					0
小計(12科目)		—	0	20	0	4	1	0	0	0	0	1
教 育 実 践 力 開 発 コ ー ス	教育方法の開発と実 践研究	1前		2		1	3					
	メンタリングと校内 研修	1前		2		1	1					
	学校教育のアクセシ ビリティ	1後		2		2	0					
	社会的・職業的自立 を支援する進路指導 とキャリア教育	1後		2		2						
	教育実践課題解決研 究Ⅰ(教育実践)	1前		1		5	4					
	教育実践課題解決研 究Ⅱ(教育実践)	1後		1		5	4					
	教育実践課題解決研 究Ⅲ(教育実践)	2前		1		5	4					
	教育実践課題解決研 究Ⅳ(教育実践)	2後		1		5	4					
小計(8科目)		—	0	12	0	6	4	0	0	0	0	
教 師 の キ ャ リ ア 発 達 と 教 育 実 践	教師のキャリア発達 と教育実践	1前		2		2	1					
	プログラミング教育 の実践と教材開発	1後		2		2	1					1
	初等言語教育の理論 と実践	1後		2			2					2
	言語教育実践と教材 開発研究	1前		2								2
	古典教育と教材開発 研究	1前		2								2
	英米文学と英語教科 材開発への応用	1前		2								1
	言語学理論と英語科 教材開発への応用	1後		2								2
	初等社会科教育の理 論と実践	1後		2		1						
	社会科・地理歴史科 教材開発研究	1前		2								4
	社会科・公民科教材 開発研究	1後		2								4

コース別選択科目	授業実践力開発コース	初等理数教育の理論と実践	1前	2	1															2	
		理科の発展的理解と指導法	1前	2																	6
		理科観察実験研究「生命・地球」	2前	2																	3
		理科観察実験研究「物質・エネルギー」	1後	2																	3
		算数・数学科教材開発研究「数と形」	1・2後	2																	2
		算数・数学科教材開発研究「関数」	1・2前	2																	2
		数学の歴史を活かした数学教育	1・2後	2																	2
		数学の実験を活かした数学教育	1・2前	2																	2
		初等体育科教育の理論と実践	1後	2	1																1
		体力科学実践研究	1前	2	1																1
		健康科学実践研究	1後	2	1																1
		初等生活科・家庭科教育の理論と実践	1前	2	1																5
		家庭科教育教材開発研究	1後	2	1																3
		技術科教育教材開発研究	1前	2	1																2
		初等芸術教育の理論と実践	1前	2	1	1															
		美術科教材開発研究「造形表現」	1前	2																	2
		美術科教材開発研究「美術鑑賞」	1後	2																	3
		音楽科教材開発研究「表現」	1前	2																	2
		音楽科教材開発研究「鑑賞」	1前	2																	2
		教育実践課題解決研究Ⅰ（授業実践）	1前	1	7	2															
教育実践課題解決研究Ⅱ（授業実践）	1後	1	7	2																	
教育実践課題解決研究Ⅲ（授業実践）	2前	1	7	2																	
教育実践課題解決研究Ⅳ（授業実践）	2後	1	7	2																	
小計（33科目）	—	0	62	0	9	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	45		

コース別選択科目	授業実践力開発コース	初等理数教育の理論と実践	1前	2	1															2	
		理科の発展的理解と指導法	1前	2																	6
		理科観察実験研究「生命・地球」（未開講）	2前	2																	3
		理科観察実験研究「物質・エネルギー」	1後	2																	3
		算数・数学科教材開発研究「数と形」	1・2後	2																	2
		算数・数学科教材開発研究「関数」	1・2前	2																	2
		数学の歴史を活かした数学教育	1・2後	2																	2
		数学の実験を活かした数学教育	1・2前	2																	2
		初等体育科教育の理論と実践	1後	2	1																1
		体力科学実践研究	1前	2	1																1
		健康科学実践研究	1後	2	1																1
		初等生活科・家庭科教育の理論と実践（未開講）	1前	2	1																5
		家庭科教育教材開発研究	1後	2	1																3
		技術科教育教材開発研究	1前	2	1																2
		初等芸術教育の理論と実践	1前	2	2	1															
		美術科教材開発研究「造形表現」	1前	2																	2
		美術科教材開発研究「美術鑑賞」	1後	2																	3
		音楽科教材開発研究「表現」	1前	2																	2
		音楽科教材開発研究「鑑賞」	1前	2																	2
		教育実践課題解決研究Ⅰ（授業実践）	1前	1	9	5															
教育実践課題解決研究Ⅱ（授業実践）	1後	1	9	5																	
教育実践課題解決研究Ⅲ（授業実践）	2前	1	9	5																	
教育実践課題解決研究Ⅳ（授業実践）	2後	1	9	5																	
小計（33科目）	—	0	62	0	11	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	45		

ダイバーシティ教育力開発コース	スペシャルニーズ教育の理論と実践	1前	2		2															
	子どもの心の臨床心理学的理解と支援	1後	2	1	1															
	心理的アセスメントと子ども支援	1後	2	1	1	1														
	外国人児童生徒教育の理論と実践	1後	2																	1
	特別支援教育の臨床的探究	1前	2		1															1
	幼年教育の理論と実践	1後	2	2	1															
	教育・保育の方法と省察	1後	2	1																1
	特別支援教育授業研究	1・2前	2																	1
	障害児の発達診断・発達相談演習	1・2前	2																	1
	多様な教育的ニーズの理解と協働的な対応	1・2後	2		1															
	障害児の心理と学校教育	1・2後	2			1								1	0					
	障害児の心理と子ども支援	1・2後	2			1								1	0					
	特別支援教育の教育方法学的探究	1・2前	2																	1
	特別支援教育の現代実践と課題	1・2後	2																	1
	障害児の病理と教育支援	1・2前	2																	1
障害児の病理と健康支援	1・2後	2																	1	
子どもの発達と支援	1前	2		2															1	

教育実践課題解決研究 A I (ダイバーシティ)	1前	1	3							
教育実践課題解決研究 A II (ダイバーシティ)	1後	1	3							
教育実践課題解決研究 A III (ダイバーシティ)	2前	1	3							
教育実践課題解決研究 A IV (ダイバーシティ)	2後	1	3							
教育実践課題解決研究 B I (ダイバーシティ)	1前	1	1	2	1					
教育実践課題解決研究 B II (ダイバーシティ)	1後	1	1	2	1					
教育実践課題解決研究 B III (ダイバーシティ)	2前	1	1	2	1					
教育実践課題解決研究 B IV (ダイバーシティ)	2後	1	1	2	1					
小計 (25科目)	-	0	42	0	5	2	1	0	0	5
合計 (117科目)	-	18	181	0	18	9	1	0	0	54

卒業要件及び履修方法

【修了要件】  
本専攻に2年以上在学し、所定の46単位以上を修得すること。  
【履修方法】  
＜全コース共通＞  
○共通科目18単位（必修）  
＜学校経営力開発コース＞  
【実習科目】  
「経営課題解決基本実習Ⅰ・Ⅱ」「経営課題解決発展実習」「地域協働実習」「教育行政実習」の5科目を必修科目として履修し、修了要件の10単位とする。加えて選択科目として各コース共通の「海外連携校実習Ⅰ・Ⅱ」（各1単位）を設け、修了要件を超えて履修可能な科目とする。  
【コース科目】  
「学校組織マネジメント研究」「学校経営と教育リーダーシップ」「教職員の職能開発システムに関する実践的研究」「カリキュラムマネジメントと校内研修」「教育政策・教育行政の理論と実践」「学校安全・学校危機管理に関する実践的研究」（各2単位）の6科目（計12単位）及び「教育実践課題解決研究Ⅰ～Ⅳ（経営）」（計4単位）をコース必修科目とする。「学校と地域の連携協働に関する実践的研究」「教育法規の理論と実践」（各2単位）については、この2科目から1科目（2単位）を選択必修とする。以上のコース必修科目及びコース選択必修科目を合わせて計18単位以上を履修する。加えて、教育実践力開発コース、授業実践力開発コース、ダイバーシティ教育力開発コースの各コース科目のうち、他コースの学生も履修可能な科目として設定されている科目（コース関連携科目）を修了要件を超えて履修可能な科目とする。  
なお、以下の（コース関連携科目）は、他コースの学生も履修可能な科目である。  
＜教育実践力開発コース＞  
【実習科目】  
「実践課題解決基本実習Ⅰ・Ⅱ」「実践課題解決発展実習」「研修開発実習」の4科目（8単位）を必修科目として履修する。加えて、「教育委員会実習」（2単位）「海外連携校実習Ⅰ・Ⅱ」（各1単位）の3科目から2単位以上を選択必修として履修し、計10単位以上を履修する。  
【コース科目】  
「教育方法の開発と実践研究」「メンタリングと校内研修」「学校教育のアクションリサーチ」「社会的・職業的自立を支援する進路指導とキャリア教育」（各2単位）の4科目（8単位）及び「教育実践課題解決研究Ⅰ～Ⅳ（教育実践）」（計4単位）をコース必修科目とする。さらに、学校経営力開発コース、授業実践力開発コース、ダイバーシティ教育力開発コースの各コース科目のうち、他コースの学生も履修可能な科目として設定されている科目（コース関連携科目）の中から、選択必修として6単位以上を履修し、コース必修科目と合わせて18単位以上を履修する。  
なお、以下の（コース関連携科目）は、他コースの学生も履修可能な科目である。  
＜授業実践力開発コース＞  
【実習科目】  
「実践入門実習」「授業実践基本実習Ⅰ～Ⅲ」「授業実践発展実習」の5科目（7単位）を必修科目として履修し、加えて選択科目として設定している「学校支援実習Ⅰ～Ⅵ」（各1単位）「海外連携校実習Ⅰ・Ⅱ」（各1単位）の中から3単位以上を選択必修として履修し、計10単位以上を履修する。  
【コース科目】  
「教師のキャリア発達と教育実践」「プログラミング教育の実践と教材開発」の2科目（4単位）及び「教育実践課題解決研究Ⅰ～Ⅳ（授業実践）」（計4単位）をコース必修科目とする。「初等言語教育の理論と実践」「言語教育実践と教材開発研究」「古典教育と教材開発研究」「英米文学と英語科教材開発への応用」「言語学理論と英語科教材開発への応用」「初等社会科教育の理論と実践」「社会科・地理歴史科教材開発研究」「社会科・公民科教材開発研究」「初等理数教育の理論と実践」「理科の発展的理解と指導法」「理科観察実験研究「生命・地球」」「理科観察実験研究「物質・エネルギー」」「算数・数学科教材開発研究「数と形」」「算数・数学科教材開発研究「関数」」「数学の歴史を活かした数学教育」「数学の実験を活かした数学教育」「初等体育科教育の理論と実践」「体力科学実践研究」「健康科学実践研究」「初等生活科・家庭科教育の理論と実践」「家庭科教育教材開発研究」「技術科教育教材開発研究」「初等芸術教育の理論と実践」「美術科教材開発研究「造形表現」」「美術科教材開発研究「美術鑑賞」」「音楽科教材開発研究「表現」」「音楽科教材開発研究「鑑賞」」（各2単位）計27科目（54単位）から5科目（10単位）以上を選択必修科目として履修する。以上のコース必修科目及びコース選択必修科目を合わせて計18単位以上を履修する。加えて、学校経営力開発コース、教育実践力開発コース、ダイバーシティ教育力開発コースの各コース科目のうち、他コースの学生も履修可能な科目として設定されている科目（コース関連携科目）を修了要件を超えて履修可能な科目とする。  
なお、以下の（コース関連携科目）は、他コースの学生も履修可能な科目である。

教育実践課題解決研究 A I (ダイバーシティ)	1前	1	5	3						
教育実践課題解決研究 A II (ダイバーシティ)	1後	1	5	3						
教育実践課題解決研究 A III (ダイバーシティ)	2前	1	5	3						
教育実践課題解決研究 A IV (ダイバーシティ)	2後	1	5	3						
教育実践課題解決研究 B I (ダイバーシティ)	1前	1	3	5	0					
教育実践課題解決研究 B II (ダイバーシティ)	1後	1	3	5	0					
教育実践課題解決研究 B III (ダイバーシティ)	2前	1	3	5	0					
教育実践課題解決研究 B IV (ダイバーシティ)	2後	1	3	5	0					
小計 (25科目)	-	0	42	0	7	5	0	0	0	5
合計 (117科目)	-	18	181	0	21	9	0	0	0	54

卒業要件及び履修方法

【修了要件】  
本専攻に2年以上在学し、所定の46単位以上を修得すること。  
【履修方法】  
＜全コース共通＞  
○共通科目18単位（必修）  
＜学校経営力開発コース＞  
【実習科目】  
「経営課題解決基本実習Ⅰ・Ⅱ」「経営課題解決発展実習」「地域協働実習」「教育行政実習」の5科目を必修科目として履修し、修了要件の10単位とする。加えて選択科目として各コース共通の「海外連携校実習Ⅰ・Ⅱ」（各1単位）を設け、修了要件を超えて履修可能な科目とする。  
【コース科目】  
「学校組織マネジメント研究」「学校経営と教育リーダーシップ」「教職員の職能開発システムに関する実践的研究」「カリキュラムマネジメントと校内研修」「教育政策・教育行政の理論と実践」「学校安全・学校危機管理に関する実践的研究」（各2単位）の6科目（計12単位）及び「教育実践課題解決研究Ⅰ～Ⅳ（経営）」（計4単位）をコース必修科目とする。「学校と地域の連携協働に関する実践的研究」「教育法規の理論と実践」（各2単位）については、この2科目から1科目（2単位）を選択必修とする。以上のコース必修科目及びコース選択必修科目を合わせて計18単位以上を履修する。加えて、教育実践力開発コース、授業実践力開発コース、ダイバーシティ教育力開発コースの各コース科目のうち、他コースの学生も履修可能な科目として設定されている科目（コース関連携科目）を修了要件を超えて履修可能な科目とする。  
なお、以下の（コース関連携科目）は、他コースの学生も履修可能な科目である。  
＜教育実践力開発コース＞  
【実習科目】  
「実践課題解決基本実習Ⅰ・Ⅱ」「実践課題解決発展実習」「研修開発実習」の4科目（8単位）及び「教育実践課題解決研究Ⅰ～Ⅳ（教育実践）」（計4単位）をコース必修科目とする。さらに、学校経営力開発コース、授業実践力開発コース、ダイバーシティ教育力開発コースの各コース科目のうち、他コースの学生も履修可能な科目として設定されている科目（コース関連携科目）の中から、選択必修として6単位以上を履修し、コース必修科目と合わせて18単位以上を履修する。  
なお、以下の（コース関連携科目）は、他コースの学生も履修可能な科目である。  
＜授業実践力開発コース＞  
【実習科目】  
「実践入門実習」「授業実践基本実習Ⅰ～Ⅲ」「授業実践発展実習」の5科目（7単位）を必修科目として履修し、加えて選択科目として設定している「学校支援実習Ⅰ～Ⅵ」（各1単位）「海外連携校実習Ⅰ・Ⅱ」（各1単位）の中から3単位以上を選択必修として履修し、計10単位以上を履修する。  
【コース科目】  
「教師のキャリア発達と教育実践」「プログラミング教育の実践と教材開発」の2科目（4単位）及び「教育実践課題解決研究Ⅰ～Ⅳ（授業実践）」（計4単位）をコース必修科目とする。「初等言語教育の理論と実践」「言語教育実践と教材開発研究」「古典教育と教材開発研究」「英米文学と英語科教材開発への応用」「言語学理論と英語科教材開発への応用」「初等社会科教育の理論と実践」「社会科・地理歴史科教材開発研究」「社会科・公民科教材開発研究」「初等理数教育の理論と実践」「理科の発展的理解と指導法」「理科観察実験研究「生命・地球」」「理科観察実験研究「物質・エネルギー」」「算数・数学科教材開発研究「数と形」」「算数・数学科教材開発研究「関数」」「数学の歴史を活かした数学教育」「数学の実験を活かした数学教育」「初等体育科教育の理論と実践」「体力科学実践研究」「健康科学実践研究」「初等生活科・家庭科教育の理論と実践」「家庭科教育教材開発研究」「技術科教育教材開発研究」「初等芸術教育の理論と実践」「美術科教材開発研究「造形表現」」「美術科教材開発研究「美術鑑賞」」「音楽科教材開発研究「表現」」「音楽科教材開発研究「鑑賞」」（各2単位）計27科目（54単位）から5科目（10単位）以上を選択必修科目として履修する。以上のコース必修科目及びコース選択必修科目を合わせて計18単位以上を履修する。加えて、学校経営力開発コース、教育実践力開発コース、ダイバーシティ教育力開発コースの各コース科目のうち、他コースの学生も履修可能な科目として設定されている科目（コース関連携科目）を修了要件を超えて履修可能な科目とする。  
なお、以下の（コース関連携科目）は、他コースの学生も履修可能な科目である。

＜ダイバーシティ教育力開発コース＞

〔実習科目〕

「ダイバーシティ教育基本実習」「特別支援実習」「フィールドワーク実習」「心理アセスメント実習」「ダイバーシティ教育発展実習」の5科目(10単位)を必修科目として履修し、修了要件の10単位とする。加えて選択科目として「海外連携校実習Ⅰ・Ⅱ」(各1単位)を設け、修了要件を超えて履修可能な科目とする。

〔コース科目〕

「スペシャルニーズ教育の理論と実践」「子どもの心の臨床心理学的理解と支援」「心理的アセスメントと子ども支援」の3科目(6単位)及び「教育実践課題解決研究Ⅰ～Ⅳ(ダイバーシティ)」(計4単位:幼児教育を主体)又は「教育実践課題解決研究Ⅰ～Ⅳ(ダイバーシティ)」(計4単位:特別支援教育を主体)のいずれかをコース必修科目とする。加えて、「外国人児童生徒教育の理論と実践」「特別支援教育の臨床的探究」「幼年教育の理論と実践」「教育・保育の方法と省察」「特別支援教育授業研究」「障害児の発達診断・発達相談演習」「多様な教育的ニーズの理解と協働的な対応」「障害児の心理と学校教育」「障害児の心理と子ども支援」「特別支援教育の教育方法学的探究」「特別支援教育の現代的実践と課題」「障害児の病理と教育支援」「障害児の病理と健康支援」「子どもの発達と支援」のコース科目計14科目(28単位)、及び学校経営力開発コース、教育実践力開発コース、授業実践力開発コースの各コース科目のうち他コースの学生も履修可能な科目として設定されている科目(コース関連携科目)の中から選択必修として8単位以上を履修し、コース必修科目と合わせて計18単位以上を履修する。  
なお、以下の(コース関連携科目)は、他コースの学生も履修可能な科目である。

(コース関連携科目)

コース別選択科目-学校経営力開発コース:「学校と地域の連携協働に関する実践的研究」「教育法規の理論と実践」  
コース別選択科目-教育実践力開発コース:「教育方法の開発と実践研究」「メンタリングと校内研修」  
コース別選択科目-授業実践力開発コース:「初等言語教育の理論と実践」「言語教育実践と教材開発研究」「古典教育と教材開発研究」「英米文学と英語科教材開発への応用」「言語学理論と英語科教材開発への応用」「初等社会科教育の理論と実践」「社会科・地理歴史科教材開発研究」「社会科・公民科教材開発研究」「初等理科教育の理論と実践」「理科の発見的探究と指導法」「理科観察実験研究「生命・地球」」「理科観察実験研究「物質・エネルギー」」「算数・数学科教材開発研究「数と形」」「算数・数学科教材開発研究「関数」」「数学の歴史を活かした数学教育」「数学の実験を活かした数学教育」「初等体育科教育の理論と実践」「体力科学実践研究」「健康科学実践研究」「初等生活科・家庭科教育の理論と実践」「家庭科教材開発研究」「技術科教育教材開発研究」「初等芸術教育の理論と実践」「美術科教材開発研究」「造形表現」」「美術科教材開発研究「美術鑑賞」」「音楽科教材開発研究「表現」」「音楽科教材開発研究「鑑賞」」  
コース別選択科目-ダイバーシティ教育力開発コース:「スペシャルニーズ教育の理論と実践」「子どもの心の臨床心理学的理解と支援」「特別支援教育の臨床的探究」「幼年教育の理論と実践」「教育・保育の方法と省察」

(履修科目の登録の上限:1学期に履修登録することができる単位数の上限は25単位とする。この場合において、集中授業で行う講義等及び実習科目の単位は含まない。)

＜ダイバーシティ教育力開発コース＞

〔実習科目〕

「ダイバーシティ教育基本実習」「特別支援実習」「フィールドワーク実習」「心理アセスメント実習」「ダイバーシティ教育発展実習」の5科目(10単位)を必修科目として履修し、修了要件の10単位とする。加えて選択科目として「海外連携校実習Ⅰ・Ⅱ」(各1単位)を設け、修了要件を超えて履修可能な科目とする。

〔コース科目〕

「スペシャルニーズ教育の理論と実践」「子どもの心の臨床心理学的理解と支援」「心理的アセスメントと子ども支援」の3科目(6単位)及び「教育実践課題解決研究Ⅰ～Ⅳ(ダイバーシティ)」(計4単位:幼児教育を主体)又は「教育実践課題解決研究Ⅰ～Ⅳ(ダイバーシティ)」(計4単位:特別支援教育を主体)のいずれかをコース必修科目とする。加えて、「外国人児童生徒教育の理論と実践」「特別支援教育の臨床的探究」「幼年教育の理論と実践」「教育・保育の方法と省察」「特別支援教育授業研究」「障害児の発達診断・発達相談演習」「多様な教育的ニーズの理解と協働的な対応」「障害児の心理と学校教育」「障害児の心理と子ども支援」「特別支援教育の教育方法学的探究」「特別支援教育の現代的実践と課題」「障害児の病理と教育支援」「障害児の病理と健康支援」「子どもの発達と支援」のコース科目計14科目(28単位)、及び学校経営力開発コース、教育実践力開発コース、授業実践力開発コースの各コース科目のうち他コースの学生も履修可能な科目として設定されている科目(コース関連携科目)の中から選択必修として8単位以上を履修し、コース必修科目と合わせて計18単位以上を履修する。  
なお、以下の(コース関連携科目)は、他コースの学生も履修可能な科目である。

(コース関連携科目)

コース別選択科目-学校経営力開発コース:「学校と地域の連携協働に関する実践的研究」「教育法規の理論と実践」  
コース別選択科目-教育実践力開発コース:「教育方法の開発と実践研究」「メンタリングと校内研修」  
コース別選択科目-授業実践力開発コース:「初等言語教育の理論と実践」「言語教育実践と教材開発研究」「古典教育と教材開発研究」「英米文学と英語科教材開発への応用」「言語学理論と英語科教材開発への応用」「初等社会科教育の理論と実践」「社会科・地理歴史科教材開発研究」「社会科・公民科教材開発研究」「初等理科教育の理論と実践」「理科の発見的探究と指導法」「理科観察実験研究「生命・地球」」「理科観察実験研究「物質・エネルギー」」「算数・数学科教材開発研究「数と形」」「算数・数学科教材開発研究「関数」」「数学の歴史を活かした数学教育」「数学の実験を活かした数学教育」「初等体育科教育の理論と実践」「体力科学実践研究」「健康科学実践研究」「初等生活科・家庭科教育の理論と実践」「家庭科教材開発研究」「技術科教育教材開発研究」「初等芸術教育の理論と実践」「美術科教材開発研究」「造形表現」」「美術科教材開発研究「美術鑑賞」」「音楽科教材開発研究「表現」」「音楽科教材開発研究「鑑賞」」  
コース別選択科目-ダイバーシティ教育力開発コース:「スペシャルニーズ教育の理論と実践」「子どもの心の臨床心理学的理解と支援」「特別支援教育の臨床的探究」「幼年教育の理論と実践」「教育・保育の方法と省察」

(履修科目の登録の上限:1学期に履修登録することができる単位数の上限は25単位とする。この場合において、集中授業で行う講義等及び実習科目の単位は含まない。)

- (注)・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
  - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
  - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
  - ・ 「認可時又は届出時」には、設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**赤字**としてください。
  - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
  - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
  - ・ 不要な年度(令和元年度開設であれば平成30年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
  - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
- (1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和3年度】

- ・ 人事交流及び採用の理由により、「授業実践の探求と教育課程」の専任教員等の配置を「教授0」「准教授2」から「教授1」「准教授1」に変更。
- ・ 人事交流及び採用の理由により、「メディア活用実践研究」の専任教員等の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・ 昇任の理由により、「滋賀の教育課題と指導方法」の専任教員等の配置を「教授5」「准教授1」から「教授6」に変更。
- ・ 人事交流及び採用の理由により、「学びの基盤となる学級経営の探求」の専任教員等の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・ 昇任及び採用の理由により、「学校経営の理論と実践」の専任教員等の配置を「教授1」「准教授1」から「教授3」に変更。
- ・ 昇任の理由により、「現代社会の課題と教員役割」の専任教員等の配置を「教授1」「准教授1」から「教授2」に変更。
- ・ 昇任の理由により、「経営課題解決基本実習Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授1」「准教授2」から「教授2」「准教授1」に変更。
- ・ 昇任の理由により、「経営課題解決基本実習Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授1」「准教授2」から「教授2」「准教授1」に変更。
- ・ 昇任の理由により、「経営課題解決発展実習」の専任教員等の配置を「教授1」「准教授2」から「教授2」「准教授1」に変更。
- ・ 昇任の理由により、「地域協働実習」の専任教員等の配置を「教授1」「准教授1」から「教授2」に変更。
- ・ 昇任の理由により、「教育行政実習」の専任教員等の配置を「教授1」「准教授2」から「教授2」「准教授1」に変更。
- ・ 採用の理由により、「実践課題解決基本実習Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授4」から「教授6」に変更。
- ・ 採用の理由により、「実践課題解決基本実習Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授4」から「教授6」に変更。
- ・ 採用の理由により、「実践課題解決発展実習」の専任教員等の配置を「教授4」から「教授6」に変更。
- ・ 人事交流及び採用の理由により、「研究開発実習」の専任教員等の配置を「教授4」「准教授3」から「教授6」「准教授4」に変更。
- ・ 採用の理由により、「教育委員会実習」の専任教員等の配置を「教授4」から「教授6」に変更。
- ・ 人事交流、採用及び教育課程充実の理由により、「実践入門実習」の専任教員等の配置を「教授8」「准教授2」から「教授10」「准教授5」に変更。
- ・ 人事交流、採用及び教育課程充実の理由により、「授業実践基本実習Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授8」「准教授2」から「教授10」「准教授5」に変更。
- ・ 人事交流、採用の理由により、「授業実践基本実習Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授5」「准教授4」から「教授7」「准教授5」に変更。
- ・ 人事交流、採用及び教育課程充実の理由により、「授業実践基本実習Ⅲ」の専任教員等の配置を「教授8」「准教授2」から「教授10」「准教授5」に変更。
- ・ 人事交流、採用及び教育課程充実の理由により、「授業実践発展実習」の専任教員等の配置を「教授8」「准教授2」から「教授10」「准教授5」に変更。
- ・ 人事交流及び教育課程充実の理由により、「ダイバーシティ教育基本実習」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授3」に変更。

- ・昇任の理由により、「特別支援実習」の専任教員等の配置を「准教授2」「講師1」から「准教授3」に変更。
- ・昇任の理由により、「フィールドワーク実習」の専任教員等の配置を「准教授2」「講師1」から「准教授3」に変更。
- ・昇任の理由により、「心理アセスメント実習」の専任教員等の配置を「准教授2」「講師1」から「准教授3」に変更。
- ・人事交流、採用及び教育課程充実の理由により、「ダイバーシティ教育発展実習」の専任教員等の配置を「教授3」「准教授2」「講師1」から「教授6」「准教授5」に変更。
- ・昇任及び就任辞退の理由により、「学校経営と教育リーダーシップ」の専任教員等の配置を「教授1」「准教授1」「兼1」から「教授2」に変更。
- ・昇任の理由により、「教職員の職能開発システムに関する実践的研究」の専任教員等の配置を「教授1」「准教授2」から「教授2」「准教授1」に変更。
- ・昇任の理由により、「カリキュラムマネジメントと校内研修」の専任教員等の配置を「教授1」「准教授1」から「教授2」に変更。
- ・昇任の理由により、「教育政策・教育行政の理論と実践」の専任教員等の配置を「教授1」「准教授2」から「教授2」「准教授1」に変更。
- ・昇任及び就任辞退の理由により、「学校安全・学校危機管理に関する実践的研究」の専任教員等の配置を「教授1」「准教授1」「兼1」から「教授2」に変更。
- ・昇任の理由により、「学校と地域の連携協働に関する実践的研究」の専任教員等の配置を「教授1」「准教授1」から「教授2」に変更。
- ・昇任及び就任辞退の理由により、「教育実践課題解決研究Ⅰ（経営）」の専任教員等の配置を「教授2」「准教授2」「兼1」から「教授3」「准教授1」に変更。
- ・昇任及び就任辞退の理由により、「教育実践課題解決研究Ⅱ（経営）」の専任教員等の配置を「教授2」「准教授2」「兼1」から「教授3」「准教授1」に変更。
- ・昇任及び就任辞退の理由により、「教育実践課題解決研究Ⅲ（経営）」の専任教員等の配置を「教授2」「准教授2」「兼1」から「教授3」「准教授1」に変更。
- ・昇任及び就任辞退の理由により、「教育実践課題解決研究Ⅳ（経営）」の専任教員等の配置を「教授2」「准教授2」「兼1」から「教授3」「准教授1」に変更。
- ・採用の理由により、「教育方法の開発と実践研究」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」に変更。
- ・人事交流の理由により、「メンタリングと校内研究」の専任教員等の配置を「准教授2」から「准教授1」に変更。
- ・採用及び人事交流の理由により、「学校教育のアクションリサーチ」の専任教員等の配置を「教授1」「准教授2」から「教授2」に変更。
- ・採用及び人事交流の理由により、「教育実践課題解決研究Ⅰ（教育実践）」の専任教員等の配置を「教授3」「准教授3」から「教授5」「准教授4」に変更。
- ・採用及び人事交流の理由により、「教育実践課題解決研究Ⅱ（教育実践）」の専任教員等の配置を「教授3」「准教授3」から「教授5」「准教授4」に変更。
- ・採用及び人事交流の理由により、「教育実践課題解決研究Ⅲ（教育実践）」の専任教員等の配置を「教授3」「准教授3」から「教授5」「准教授4」に変更。
- ・採用及び人事交流の理由により、「教育実践課題解決研究Ⅳ（教育実践）」の専任教員等の配置を「教授3」「准教授3」から「教授5」「准教授4」に変更。
- ・採用及び人事交流の理由により、「教師のキャリア発達と教育実践」の専任教員等の配置を「教授3」から「教授2」「准教授1」に変更。
- ・採用及び人事交流の理由により、「プログラミング教育の実践と教材開発」の専任教員等の配置を「教授3」から「教授2」「准教授1」に変更。
- ・採用の理由により、「初等芸術教育の理論と実践」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授2」に変更。
- ・採用及び人事交流の理由により、「教育実践課題解決研究Ⅰ（授業実践）」の専任教員等の配置を「教授7」「准教授2」から「教授9」「准教授5」に変更。
- ・採用及び人事交流の理由により、「教育実践課題解決研究Ⅱ（授業実践）」の専任教員等の配置を「教授7」「准教授2」から「教授9」「准教授5」に変更。
- ・採用及び人事交流の理由により、「教育実践課題解決研究Ⅲ（授業実践）」の専任教員等の配置を「教授7」「准教授2」から「教授9」「准教授5」に変更。
- ・採用及び人事交流の理由により、「教育実践課題解決研究Ⅳ（授業実践）」の専任教員等の配置を「教授7」「准教授2」から「教授9」「准教授5」に変更。
- ・採用の理由により、「スペシャルニーズ教育の理論と実践」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」に変更。
- ・採用及び人事交流の理由により、「子どもの心の臨床心理学的理解と支援」の専任教員等の配置を「教授1」「准教授1」から「教授2」に変更。
- ・昇任及び人事交流の理由により、「心理的アセスメントと子ども支援」の専任教員等の配置を「講師1」から「講師0」に変更。
- ・昇任の理由により、「障害児の心理と学校教育」の専任教員等の配置を「講師1」から「准教授1」に変更。
- ・昇任の理由により、「障害児の心理と子ども支援」の専任教員等の配置を「講師1」から「准教授1」に変更。
- ・採用及び人事交流の理由により、「教育実践課題解決研究AⅠ（ダイバーシティ）」の専任教員等の配置を「教授3」から「教授5」「准教授3」に変更。
- ・採用及び人事交流の理由により、「教育実践課題解決研究AⅡ（ダイバーシティ）」の専任教員等の配置を「教授3」から「教授5」「准教授3」に変更。
- ・採用及び人事交流の理由により、「教育実践課題解決研究AⅢ（ダイバーシティ）」の専任教員等の配置を「教授3」から「教授5」「准教授3」に変更。
- ・採用及び人事交流の理由により、「教育実践課題解決研究AⅣ（ダイバーシティ）」の専任教員等の配置を「教授3」から「教授5」「准教授3」に変更。
- ・昇任、採用及び人事交流の理由により、「教育実践課題解決研究BⅠ（ダイバーシティ）」の専任教員等の配置を「教授1」「准教授2」「講師1」から「教授3」「准教授5」に変更。
- ・昇任、採用及び人事交流の理由により、「教育実践課題解決研究BⅡ（ダイバーシティ）」の専任教員等の配置を「教授1」「准教授2」「講師1」から「教授3」「准教授5」に変更。
- ・昇任、採用及び人事交流の理由により、「教育実践課題解決研究BⅢ（ダイバーシティ）」の専任教員等の配置を「教授1」「准教授2」「講師1」から「教授3」「准教授5」に変更。
- ・昇任、採用及び人事交流の理由により、「教育実践課題解決研究BⅣ（ダイバーシティ）」の専任教員等の配置を「教授1」「准教授2」「講師1」から「教授3」「准教授5」に変更。

- (注) ・ 2(1)一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
  - ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

## (2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
11 科目	106 科目	0 科目	117 科目	11 科目 [ 0 ]	106 科目 [ 0 ]	0 科目 [ 0 ]	117 科目 [ 0 ]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
  - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; display: inline-block;"><h2 style="margin: 0;">該当なし</h2></div>
--

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{117} = \boxed{0}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校舎敷地	162,440 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	162,440 m <sup>2</sup>				
	運動場用地	76,930 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	76,930 m <sup>2</sup>				
	小 計	239,370 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	239,370 m <sup>2</sup>				
	そ の 他	109,382 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	109,382 m <sup>2</sup>				
	合 計	348,752 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	348,752 m <sup>2</sup>				
(2) 校 舎	専 用	61,806 m <sup>2</sup> 61,790 m <sup>2</sup> ( <del>61,806 m<sup>2</sup></del> ) ( <del>61,790 m<sup>2</sup></del> )	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	61,806 m <sup>2</sup> 61,790 m <sup>2</sup> ( <del>61,806 m<sup>2</sup></del> ) ( <del>61,790 m<sup>2</sup></del> )	大学全体 改修及び撤去のため			
	講義室	46室 45室	演習室 34室 44室	実験実習室 71室 72室	情報処理学習施設 8室 11室 (補助職員2人)	語学学習施設 1室 4室 (補助職員0人)			
(3) 教 室 等	新設学部等の名称				室 数	令和3年4月専任教員2名 を新規採用のため			
	教育学研究科				27 25	室			
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点		
	教育学研究科	659,399 [136,996] <del>655,539 [137,361]</del> (659,399 [136,996]) <del>(655,539 [137,361])</del>	22,147 [8,137] <del>20,857 [8,032]</del> (22,147 [8,137]) <del>(20,857 [8,032])</del>	4,984 [4,891] <del>4,842 [4,788]</del> (4,984 [4,891]) <del>(4,842 [4,788])</del>	12,978 <del>12,931</del> (12,978) <del>(12,931)</del>	61 <del>59</del> (61) <del>(59)</del>	0 (0)	大学全体 購入、契約変更及び廃 棄のため	
	計	659,399 [136,996] <del>655,539 [137,361]</del> (659,399 [136,996]) <del>(655,539 [137,361])</del>	22,147 [8,137] <del>20,857 [8,032]</del> (22,147 [8,137]) <del>(20,857 [8,032])</del>	4,984 [4,891] <del>4,842 [4,788]</del> (4,984 [4,891]) <del>(4,842 [4,788])</del>	12,978 <del>12,931</del> (12,978) <del>(12,931)</del>	61 <del>59</del> (61) <del>(59)</del>	0 (0)		
	(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数		761,000	大学全体 用途替及び座席数増設 のため	
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				5,437m <sup>2</sup>	野球場、テニスコート、プール、 弓道場など	大学全体
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度		
	教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円		
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円		
	学生1人当り 納付金	第1年次 千円	第2年次 千円	第3年次 千円	第4年次 千円	第5年次 千円	第6年次 千円		
	学生納付金以外の維持方法の概要								

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和3年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	滋賀大学						1	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	備考		
	既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号				平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率
教育学部	年	人	年次人	人	学士(教育)	倍	倍	年度	年度	年度	
学校教育教員養成課程	4	230	—	920		1.05	1.06	—	平成9年度	滋賀県大津市平津二丁目5番1号	
	4	230	—	920		1.05	1.06	—	平成9年度		
経済学部	4	460	3年次 20	1880	学士(経済学)	1.01	1.00	—	平成29年度	滋賀県彦根市馬場一丁目1番1号	
経済学科											
昼間主コース	4	165	3年次 5	670		0.99	0.97	—	平成29年度		
夜間主コース	4	11	—	44		0.91	0.91	—			
ファイナンス学科					学士(経済学)						
昼間主コース	4	55	3年次 3	226		1.00	1.04	—	平成29年度		
夜間主コース	4	9	—	36		0.75	0.56	—			
企業経営学科					学士(経済学)						
昼間主コース	4	75	3年次 4	308		1.11	1.17	—	平成29年度		
夜間主コース	4	10	—	40		1.15	1.00	—			
会計情報学科					学士(経済学)						
昼間主コース	4	50	3年次 3	206		0.96	0.94	—	平成29年度		
夜間主コース	4	9	—	36		1.03	0.78	—			
情報管理学科					学士(経済学)				平成2年度		平成29年学生募集停止
昼間主コース	4	—	—	—		—	—	—			
夜間主コース	4	—	—	—		—	—	—			
社会システム学科					学士(経済学)				平成29年度		
昼間主コース	4	65	3年次 5	270		1.02	0.97	—			
夜間主コース	4	11	—	44		1.02	1.09	—			
データサイエンス学部	4	100	—	400	学士(データサイエンス)	1.05	1.00	—	平成29年度	滋賀県彦根市馬場一丁目1番1号	
データサイエンス学科	4	100	—	400		1.05	1.00	—	平成29年度		
大学全体	—	790	20	3200	—	—	—	—	—	—	
教育学研究科	2	35	—	90		—	—			滋賀県大津市平津二丁目5番1号	
(専門職学位課程)											
高度教職実践専攻	2	35	—	55	教職修士(専門職)	0.71	0.57	—	令和3年度		
(修士課程)											
学校教育専攻	2	—	—	35	修士(教育学)	—	—	—	平成3年度		令和3年学生募集停止

経済学研究科	—	35	—	76	—	—				滋賀県彦根市馬場一丁目1番1号		
(博士前期課程)												
経済学専攻	2	13	—	26	修士 (経済学)	0.73	0.69	—	昭和48年度			
経営学専攻	2	13	—	26	修士 (経営学)	0.74	0.85	—	昭和48年度			
グローバル・ファイナンス専攻	2	6	—	12	修士 (ファイナンス)	0.25	0.33	—	平成13年度			
(博士後期課程)												
経済経営リスク専攻	3	3	—	12	博士 (経済学) (経営学)	0.61	1.00	令和2年度	平成15年度		定員変更(△3)	
データサイエンス研究科	—	43		66		—	—			滋賀県彦根市馬場一丁目1番1号		
(博士前期課程)												
データサイエンス専攻	2	40	—	60	修士 (データサイエンス)	1.14	1.08	令和3年度	平成31年度		定員変更(20)	
(博士後期課程)												
データサイエンス専攻	3	3	—	6	博士 (データサイエンス)	1.00	1.00	—	令和2年度			
大学院全体	—	113	0	232	—	—	—	—	—	—		
大学の名称	〇〇短期大学						学生募集停止学科数		平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数			備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地		
	年	人	年次	人		倍	倍					
該当なし												

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(専攻科及び別科を除く)。なお、調査対象の学科等が設置されている大学から順に記載してください。
- ・学部/学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
- ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
- ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
- ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和3年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<教育学研究科 高度教職実践専攻>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	大野 裕己 (47) <平成29年4月> 博士(教育学)
		学校経営の理論と実践 経営課題解決基本実習Ⅰ 経営課題解決基本実習Ⅱ 経営課題解決発展実習 教育行政実習 海外連携校実習Ⅱ【隔年】 学校組織マネジメント研究 学校経営と教育リーダーシップ 教職員の職能開発システムに関する実践的研究 カリキュラムマネジメントと校内研修 学校と地域の連携協働に関する実践的研究 教育法規の理論と実践 教育実践課題解決研究Ⅰ(経営) 教育実践課題解決研究Ⅱ(経営) 教育実践課題解決研究Ⅲ(経営) 教育実践課題解決研究Ⅳ(経営)
		奥田 援史 (58) <平成29年4月> 体育学修士
専	教授	滋賀の教育課題と指導方法 ※ ダイバーシティ教育基本実習 ダイバーシティ教育発展実習 海外連携校実習Ⅰ【隔年】 海外連携校実習Ⅱ【隔年】 幼年教育の理論と実践 教育実践課題解決研究AⅠ(ダイバーシティ) 教育実践課題解決研究AⅡ(ダイバーシティ) 教育実践課題解決研究AⅢ(ダイバーシティ) 教育実践課題解決研究AⅣ(ダイバーシティ)
専他	教授	声谷 道子 (51) <令和3年4月> 博士(医学)
		生徒指導・教育相談の理論と実践 フィールドワーク実習 心理アセスメント実習 ダイバーシティ教育発展実習 子どもの心の臨床心理学的理解と支援 ※ 心理的アセスメントと子ども支援 ※ 教育実践課題解決研究BⅠ(ダイバーシティ) 教育実践課題解決研究BⅡ(ダイバーシティ) 教育実践課題解決研究BⅢ(ダイバーシティ) 教育実践課題解決研究BⅣ(ダイバーシティ)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	大野 裕己 (47) <平成29年4月> 博士(教育学)
		学校経営の理論と実践 経営課題解決基本実習Ⅰ 経営課題解決基本実習Ⅱ 経営課題解決発展実習 教育行政実習 海外連携校実習Ⅱ【隔年】 学校組織マネジメント研究 学校経営と教育リーダーシップ 教職員の職能開発システムに関する実践的研究 カリキュラムマネジメントと校内研修 学校と地域の連携協働に関する実践的研究 教育法規の理論と実践 教育実践課題解決研究Ⅰ(経営) 教育実践課題解決研究Ⅱ(経営) 教育実践課題解決研究Ⅲ(経営) 教育実践課題解決研究Ⅳ(経営)
		奥田 援史 (58) <平成29年4月> 体育学修士
専	教授	滋賀の教育課題と指導方法 ※ ダイバーシティ教育基本実習 ダイバーシティ教育発展実習 海外連携校実習Ⅰ【隔年】 海外連携校実習Ⅱ【隔年】 幼年教育の理論と実践 教育実践課題解決研究AⅠ(ダイバーシティ) 教育実践課題解決研究AⅡ(ダイバーシティ) 教育実践課題解決研究AⅢ(ダイバーシティ) 教育実践課題解決研究AⅣ(ダイバーシティ)
専他	教授	声谷 道子 (51) <令和3年4月> 博士(医学)
		生徒指導・教育相談の理論と実践 フィールドワーク実習 心理アセスメント実習 ダイバーシティ教育発展実習 子どもの心の臨床心理学的理解と支援 ※ 心理的アセスメントと子ども支援 ※ 教育実践課題解決研究BⅠ(ダイバーシティ) 教育実践課題解決研究BⅡ(ダイバーシティ) 教育実践課題解決研究BⅢ(ダイバーシティ) 教育実践課題解決研究BⅣ(ダイバーシティ)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専他	教授	太田拓紀 (46) ＜令和3年4月＞ 博士(教育学)
		学校教育におけるデータサイエンス 実践入門実習 授業実践基本実習Ⅰ 授業実践基本実習Ⅱ 授業実践基本実習Ⅲ 授業実践発展実習 学校支援実習Ⅰ 学校支援実習Ⅱ 学校支援実習Ⅲ 学校支援実習Ⅳ 学校支援実習Ⅴ 学校支援実習Ⅵ 教師のキャリア発達と教育実践 ※ 教育実践課題解決研究Ⅰ(授業実践) 教育実践課題解決研究Ⅱ(授業実践) 教育実践課題解決研究Ⅲ(授業実践) 教育実践課題解決研究Ⅳ(授業実践)
専他	教授	岸本実 (60) ＜平成29年4月＞ 教育学修士
		教育課程編成の理論と実践 確かな学力を伸ばす指導と評価 実践課題解決基本実習Ⅰ 実践課題解決基本実習Ⅱ 実践課題解決発展実習 研修開発実習 教育委員会実習 海外連携校実習Ⅰ【隔年】 海外連携校実習Ⅱ【隔年】 学校教育のアクションリサーチ 教育実践課題解決研究Ⅰ(教育実践) 教育実践課題解決研究Ⅱ(教育実践) 教育実践課題解決研究Ⅲ(教育実践) 教育実践課題解決研究Ⅳ(教育実践) 初等社会科教育の理論と実践
専他	教授	久保加織 (59) ＜令和3年4月＞ 博士(学術)
		滋賀の教育課題と指導方法 ※ 実践入門実習 授業実践基本実習Ⅰ 授業実践基本実習Ⅱ 授業実践基本実習Ⅲ 授業実践発展実習 学校支援実習Ⅰ 学校支援実習Ⅱ 学校支援実習Ⅲ 学校支援実習Ⅳ 学校支援実習Ⅴ 学校支援実習Ⅵ 初等生活科・家庭科教育の理論と実践 ※ 家庭科教育教材開発研究 ※ 教育実践課題解決研究Ⅰ(授業実践) 教育実践課題解決研究Ⅱ(授業実践) 教育実践課題解決研究Ⅲ(授業実践) 教育実践課題解決研究Ⅳ(授業実践)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専他	教授	太田拓紀 (46) ＜令和3年4月＞ 博士(教育学)
		学校教育におけるデータサイエンス 実践入門実習 授業実践基本実習Ⅰ 授業実践基本実習Ⅱ 授業実践基本実習Ⅲ 授業実践発展実習 学校支援実習Ⅰ 学校支援実習Ⅱ 学校支援実習Ⅲ 学校支援実習Ⅳ 学校支援実習Ⅴ 学校支援実習Ⅵ 教師のキャリア発達と教育実践 ※ 教育実践課題解決研究Ⅰ(授業実践) 教育実践課題解決研究Ⅱ(授業実践) 教育実践課題解決研究Ⅲ(授業実践) 教育実践課題解決研究Ⅳ(授業実践)
専他	教授	岸本実 (61) ＜平成29年4月＞ 教育学修士
		教育課程編成の理論と実践 確かな学力を伸ばす指導と評価 実践課題解決基本実習Ⅰ 実践課題解決基本実習Ⅱ 実践課題解決発展実習 研修開発実習 教育委員会実習 海外連携校実習Ⅰ【隔年】 海外連携校実習Ⅱ【隔年】 学校教育のアクションリサーチ 教育実践課題解決研究Ⅰ(教育実践) 教育実践課題解決研究Ⅱ(教育実践) 教育実践課題解決研究Ⅲ(教育実践) 教育実践課題解決研究Ⅳ(教育実践) 初等社会科教育の理論と実践
専他	教授	久保加織 (59) ＜令和3年4月＞ 博士(学術)
		滋賀の教育課題と指導方法 ※ 実践入門実習 授業実践基本実習Ⅰ 授業実践基本実習Ⅱ 授業実践基本実習Ⅲ 授業実践発展実習 学校支援実習Ⅰ 学校支援実習Ⅱ 学校支援実習Ⅲ 学校支援実習Ⅳ 学校支援実習Ⅴ 学校支援実習Ⅵ 初等生活科・家庭科教育の理論と実践 ※ 家庭科教育教材開発研究 ※ 教育実践課題解決研究Ⅰ(授業実践) 教育実践課題解決研究Ⅱ(授業実践) 教育実践課題解決研究Ⅲ(授業実践) 教育実践課題解決研究Ⅳ(授業実践)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専他	教授	高澤茂樹 (61) ＜令和3年4月＞ 教育学修士
		実践入門実習 授業実践基本実習Ⅰ 授業実践基本実習Ⅱ 授業実践基本実習Ⅲ 授業実践発展実習 学校支援実習Ⅰ 学校支援実習Ⅱ 学校支援実習Ⅲ 学校支援実習Ⅳ 学校支援実習Ⅴ 学校支援実習Ⅵ 海外連携校実習Ⅰ【隔年】 海外連携校実習Ⅱ【隔年】 初等理数教育の理論と実践 ※ 教育実践課題解決研究Ⅰ(授業実践) 教育実践課題解決研究Ⅱ(授業実践) 教育実践課題解決研究Ⅲ(授業実践) 教育実践課題解決研究Ⅳ(授業実践)
専他	教授	岳野公人 (49) ＜令和3年4月＞ 博士(学校教育学)
		実践入門実習 授業実践基本実習Ⅰ 授業実践基本実習Ⅱ 授業実践基本実習Ⅲ 授業実践発展実習 学校支援実習Ⅰ 学校支援実習Ⅱ 学校支援実習Ⅲ 学校支援実習Ⅳ 学校支援実習Ⅴ 学校支援実習Ⅵ 海外連携校実習Ⅰ【隔年】 海外連携校実習Ⅱ【隔年】 プログラミング教育の実践と教材開発 技術科教育教材開発研究 ※ 教育実践課題解決研究Ⅰ(授業実践) 教育実践課題解決研究Ⅱ(授業実践) 教育実践課題解決研究Ⅲ(授業実践) 教育実践課題解決研究Ⅳ(授業実践)
専他	教授	辻延浩 (57) ＜平成29年4月＞ 教育学修士
		実践課題解決基本実習Ⅰ 実践課題解決基本実習Ⅱ 実践課題解決発展実習 研修開発実習 教育委員会実習 海外連携校実習Ⅰ【隔年】 海外連携校実習Ⅱ【隔年】 メンタリングと校内研修 教育実践課題解決研究Ⅰ(教育実践) 教育実践課題解決研究Ⅱ(教育実践) 教育実践課題解決研究Ⅲ(教育実践) 教育実践課題解決研究Ⅳ(教育実践) 初等体育科教育の理論と実践 ※ 体力科学実践研究 ※ 健康科学実践研究 ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専他	教授	高澤茂樹 (61) ＜令和3年4月＞ 教育学修士
		実践入門実習 授業実践基本実習Ⅰ 授業実践基本実習Ⅱ 授業実践基本実習Ⅲ 授業実践発展実習 学校支援実習Ⅰ 学校支援実習Ⅱ 学校支援実習Ⅲ 学校支援実習Ⅳ 学校支援実習Ⅴ 学校支援実習Ⅵ 海外連携校実習Ⅰ【隔年】 海外連携校実習Ⅱ【隔年】 初等理数教育の理論と実践 ※ 教育実践課題解決研究Ⅰ(授業実践) 教育実践課題解決研究Ⅱ(授業実践) 教育実践課題解決研究Ⅲ(授業実践) 教育実践課題解決研究Ⅳ(授業実践)
専他	教授	岳野公人 (49) ＜令和3年4月＞ 博士(学校教育学)
		実践入門実習 授業実践基本実習Ⅰ 授業実践基本実習Ⅱ 授業実践基本実習Ⅲ 授業実践発展実習 学校支援実習Ⅰ 学校支援実習Ⅱ 学校支援実習Ⅲ 学校支援実習Ⅳ 学校支援実習Ⅴ 学校支援実習Ⅵ 海外連携校実習Ⅰ【隔年】 海外連携校実習Ⅱ【隔年】 プログラミング教育の実践と教材開発 技術科教育教材開発研究 ※ 教育実践課題解決研究Ⅰ(授業実践) 教育実践課題解決研究Ⅱ(授業実践) 教育実践課題解決研究Ⅲ(授業実践) 教育実践課題解決研究Ⅳ(授業実践)
専他	教授	辻延浩 (58) ＜平成29年4月＞ 教育学修士
		実践課題解決基本実習Ⅰ 実践課題解決基本実習Ⅱ 実践課題解決発展実習 研修開発実習 教育委員会実習 海外連携校実習Ⅰ【隔年】 海外連携校実習Ⅱ【隔年】 メンタリングと校内研修 教育実践課題解決研究Ⅰ(教育実践) 教育実践課題解決研究Ⅱ(教育実践) 教育実践課題解決研究Ⅲ(教育実践) 教育実践課題解決研究Ⅳ(教育実践) 初等体育科教育の理論と実践 ※ 体力科学実践研究 ※ 健康科学実践研究 ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専他	教授	林(近 藤) 睦 (51) <令和3年4月> 博士(文学)
		滋賀の教育課題と指導方法 ※ 実践入門実習 授業実践基本実習Ⅰ 授業実践基本実習Ⅱ 授業実践基本実習Ⅲ 授業実践発展実習 学校支援実習Ⅰ 学校支援実習Ⅱ 学校支援実習Ⅲ 学校支援実習Ⅳ 学校支援実習Ⅴ 学校支援実習Ⅵ 初等芸術教育の理論と実践 ※ 教育実践課題解決研究Ⅰ(授業実践) 教育実践課題解決研究Ⅱ(授業実践) 教育実践課題解決研究Ⅲ(授業実践) 教育実践課題解決研究Ⅳ(授業実践)
専他	教授	藤岡 達也 (61) <平成29年4月> 博士(学術)
		滋賀の教育課題と指導方法 ※ 現代社会の課題と教員役割 ※ 地域協働実習 学校安全・学校危機管理に関する実践的研究 教育実践課題解決研究Ⅰ(経営) 教育実践課題解決研究Ⅱ(経営) 教育実践課題解決研究Ⅲ(経営) 教育実践課題解決研究Ⅳ(経営)
専他	教授	若松 養亮 (58) <令和3年4月> 博士(教育学)
		生徒指導・教育相談の理論と実践 学校教育におけるデータサイエンス 実践課題解決基本実習Ⅰ 実践課題解決基本実習Ⅱ 実践課題解決発展実習 研修開発実習 教育委員会実習 社会的・職業的自立を支援する進路指導とキャリア教育 教育実践課題解決研究Ⅰ(教育実践) 教育実践課題解決研究Ⅱ(教育実践) 教育実践課題解決研究Ⅲ(教育実践) 教育実践課題解決研究Ⅳ(教育実践)
専他	教授	渡部 雅之 (59) <令和3年4月> 博士(人間科学)
		フィールドワーク実習 ダイバーシティ教育発展実習 子どもの発達と支援 ※ 教育実践課題解決研究AⅠ(ダイバーシティ) 教育実践課題解決研究AⅡ(ダイバーシティ) 教育実践課題解決研究AⅢ(ダイバーシティ) 教育実践課題解決研究AⅣ(ダイバーシティ)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専他	教授	林(近 藤) 睦 (51) <令和3年4月> 博士(文学)
		滋賀の教育課題と指導方法 ※ 実践入門実習 授業実践基本実習Ⅰ 授業実践基本実習Ⅱ 授業実践基本実習Ⅲ 授業実践発展実習 学校支援実習Ⅰ 学校支援実習Ⅱ 学校支援実習Ⅲ 学校支援実習Ⅳ 学校支援実習Ⅴ 学校支援実習Ⅵ 初等芸術教育の理論と実践 ※ 教育実践課題解決研究Ⅰ(授業実践) 教育実践課題解決研究Ⅱ(授業実践) 教育実践課題解決研究Ⅲ(授業実践) 教育実践課題解決研究Ⅳ(授業実践)
専他	教授	藤岡 達也 (61) <平成29年4月> 博士(学術)
		滋賀の教育課題と指導方法 ※ 現代社会の課題と教員役割 ※ 地域協働実習 学校安全・学校危機管理に関する実践的研究 教育実践課題解決研究Ⅰ(経営) 教育実践課題解決研究Ⅱ(経営) 教育実践課題解決研究Ⅲ(経営) 教育実践課題解決研究Ⅳ(経営)
専他	教授	若松 養亮 (58) <令和3年4月> 博士(教育学)
		生徒指導・教育相談の理論と実践 学校教育におけるデータサイエンス 実践課題解決基本実習Ⅰ 実践課題解決基本実習Ⅱ 実践課題解決発展実習 研修開発実習 教育委員会実習 社会的・職業的自立を支援する進路指導とキャリア教育 教育実践課題解決研究Ⅰ(教育実践) 教育実践課題解決研究Ⅱ(教育実践) 教育実践課題解決研究Ⅲ(教育実践) 教育実践課題解決研究Ⅳ(教育実践)
専他	教授	渡部 雅之 (59) <令和3年4月> 博士(人間科学)
		フィールドワーク実習 ダイバーシティ教育発展実習 子どもの発達と支援 ※ 教育実践課題解決研究AⅠ(ダイバーシティ) 教育実践課題解決研究AⅡ(ダイバーシティ) 教育実践課題解決研究AⅢ(ダイバーシティ) 教育実践課題解決研究AⅣ(ダイバーシティ)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専他	准教授	窪田 知子 (42) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)
		ダイバーシティ教育の理論と実践 特別支援実習 フィールドワーク実習 心理アセスメント実習 ダイバーシティ教育発展実習 スペシャルニーズ教育の理論と実践 多様な教育的ニーズの理解と協働的な対応 【隔年】 教育実践課題解決研究BⅠ(ダイバーシティ) 教育実践課題解決研究BⅡ(ダイバーシティ) 教育実践課題解決研究BⅢ(ダイバーシティ) 教育実践課題解決研究BⅣ(ダイバーシティ)
専他	准教授	長岡(黒川) 由記 (40) ＜令和3年4月＞ 博士(教育学)
		実践入門実習 授業実践基本実習Ⅰ 授業実践基本実習Ⅱ 授業実践基本実習Ⅲ 授業実践発展実習 学校支援実習Ⅰ 学校支援実習Ⅱ 学校支援実習Ⅲ 学校支援実習Ⅳ 学校支援実習Ⅴ 学校支援実習Ⅵ 初等言語教育の理論と実践 ※ 教育実践課題解決研究Ⅰ(授業実践) 教育実践課題解決研究Ⅱ(授業実践) 教育実践課題解決研究Ⅲ(授業実践) 教育実践課題解決研究Ⅳ(授業実践)
専他	准教授	藤村 祐子 (38) ＜令和3年4月＞ 博士(教育学)
		経営課題解決基本実習Ⅰ 経営課題解決基本実習Ⅱ 経営課題解決発展実習 教育行政実習 海外連携校実習Ⅰ 【隔年】 教職員の職能開発システムに関する実践的研究 教育政策・教育行政の理論と実践 教育実践課題解決研究Ⅰ(経営) 教育実践課題解決研究Ⅱ(経営) 教育実践課題解決研究Ⅲ(経営) 教育実践課題解決研究Ⅳ(経営)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専他	准教授	窪田 知子 (42) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)
		ダイバーシティ教育の理論と実践 特別支援実習 フィールドワーク実習 心理アセスメント実習 ダイバーシティ教育発展実習 スペシャルニーズ教育の理論と実践 多様な教育的ニーズの理解と協働的な対応 【隔年】 教育実践課題解決研究BⅠ(ダイバーシティ) 教育実践課題解決研究BⅡ(ダイバーシティ) 教育実践課題解決研究BⅢ(ダイバーシティ) 教育実践課題解決研究BⅣ(ダイバーシティ)
専他	准教授	長岡(黒川) 由記 (40) ＜令和3年4月＞ 博士(教育学)
		実践入門実習 授業実践基本実習Ⅰ 授業実践基本実習Ⅱ 授業実践基本実習Ⅲ 授業実践発展実習 学校支援実習Ⅰ 学校支援実習Ⅱ 学校支援実習Ⅲ 学校支援実習Ⅳ 学校支援実習Ⅴ 学校支援実習Ⅵ 初等言語教育の理論と実践 ※ 教育実践課題解決研究Ⅰ(授業実践) 教育実践課題解決研究Ⅱ(授業実践) 教育実践課題解決研究Ⅲ(授業実践) 教育実践課題解決研究Ⅳ(授業実践)
専他	准教授	藤村 祐子 (38) ＜令和3年4月＞ 博士(教育学)
		経営課題解決基本実習Ⅰ 経営課題解決基本実習Ⅱ 経営課題解決発展実習 教育行政実習 海外連携校実習Ⅰ 【隔年】 教職員の職能開発システムに関する実践的研究 教育政策・教育行政の理論と実践 教育実践課題解決研究Ⅰ(経営) 教育実践課題解決研究Ⅱ(経営) 教育実践課題解決研究Ⅲ(経営) 教育実践課題解決研究Ⅳ(経営)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専他	准教授	堀江 伸 (64) ＜平成29年4月＞ 教育学修士
		授業実践の探究と教育課程 実践課題解決基本実習Ⅰ 実践課題解決基本実習Ⅱ 実践課題解決発展実習 研修開発実習 教育委員会実習 教育方法の開発と実践研究 教育実践課題解決研究Ⅰ(教育 実践) 教育実践課題解決研究Ⅱ(教育 実践) 教育実践課題解決研究Ⅲ(教育 実践) 教育実践課題解決研究Ⅳ(教育 実践)
専他	准教授	村田 透 (45) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)
		実践入門実習 授業実践基本実習Ⅰ 授業実践基本実習Ⅱ 授業実践基本実習Ⅲ 授業実践発展実習 学校支援実習Ⅰ 学校支援実習Ⅱ 学校支援実習Ⅲ 学校支援実習Ⅳ 学校支援実習Ⅴ 学校支援実習Ⅵ 初等芸術教育の理論と実践 ※ 教育実践課題解決研究Ⅰ(授業 実践) 教育実践課題解決研究Ⅱ(授業 実践) 教育実践課題解決研究Ⅲ(授業 実践) 教育実践課題解決研究Ⅳ(授業 実践)
専他	講師	松島 明日香 (41) ＜令和3年4月＞ 博士(社会学)
		特別支援実習 フィールドワーク実習 心理アセスメント実習 ダイバーシティ教育発展実習 心理的アセスメントと子ども支 援 ※ 障害児の心理と学校教育 【隔 年】 障害児の心理と子ども支援 【隔年】 教育実践課題解決研究BⅠ(ダ イバーシティ) 教育実践課題解決研究BⅡ(ダ イバーシティ) 教育実践課題解決研究BⅢ(ダ イバーシティ) 教育実践課題解決研究BⅣ(ダ イバーシティ)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専他	准教授	堀江 伸 (64) ＜平成29年4月＞ 教育学修士
		授業実践の探究と教育課程 実践課題解決基本実習Ⅰ 実践課題解決基本実習Ⅱ 実践課題解決発展実習 研修開発実習 教育委員会実習 教育方法の開発と実践研究 教育実践課題解決研究Ⅰ(教育 実践) 教育実践課題解決研究Ⅱ(教育 実践) 教育実践課題解決研究Ⅲ(教育 実践) 教育実践課題解決研究Ⅳ(教育 実践)
専他	准教授	村田 透 (46) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)
		実践入門実習 授業実践基本実習Ⅰ 授業実践基本実習Ⅱ 授業実践基本実習Ⅲ 授業実践発展実習 学校支援実習Ⅰ 学校支援実習Ⅱ 学校支援実習Ⅲ 学校支援実習Ⅳ 学校支援実習Ⅴ 学校支援実習Ⅵ 初等芸術教育の理論と実践 ※ 教育実践課題解決研究Ⅰ(授業 実践) 教育実践課題解決研究Ⅱ(授業 実践) 教育実践課題解決研究Ⅲ(授業 実践) 教育実践課題解決研究Ⅳ(授業 実践)
専他	准教授	松島 明日香 (41) ＜令和3年4月＞ 博士(社会学)
		特別支援実習 フィールドワーク実習 心理アセスメント実習 ダイバーシティ教育発展実習 心理的アセスメントと子ども支 援 ※ 障害児の心理と学校教育 【隔 年】 障害児の心理と子ども支援 【隔年】 教育実践課題解決研究BⅠ(ダ イバーシティ) 教育実践課題解決研究BⅡ(ダ イバーシティ) 教育実践課題解決研究BⅢ(ダ イバーシティ) 教育実践課題解決研究BⅣ(ダ イバーシティ)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
		青木善治 (56) <令和3年4月> 博士(学校教育学)
実専	教授	授業実践の探究と教育課程 メディア活用実践研究 実践課題解決基本実習Ⅰ 実践課題解決基本実習Ⅱ 実践課題解決発展実習 研修開発実習 教育委員会実習 実践入門実習 授業実践基本実習Ⅰ 授業実践基本実習Ⅱ 授業実践基本実習Ⅲ 授業実践発展実習 ダイバーシティ教育基本実習 ダイバーシティ教育発展実習 教育実践課題解決研究Ⅰ(教育実践) 教育実践課題解決研究Ⅱ(教育実践) 教育実践課題解決研究Ⅲ(教育実践) 教育実践課題解決研究Ⅳ(教育実践) 教師のキャリア発達と教育実践 ※ プログラミング教育の実践と教材開発 初等芸術教育の理論と実践 教育実践課題解決研究Ⅰ(授業実践) 教育実践課題解決研究Ⅱ(授業実践) 教育実践課題解決研究Ⅲ(授業実践) 教育実践課題解決研究Ⅳ(授業実践) スペシャルニーズ教育の理論と実践 子どもの心の臨床心理学的理解と支援 ※ 教育実践課題解決研究AⅠ(ダイバーシティ) 教育実践課題解決研究AⅡ(ダイバーシティ) 教育実践課題解決研究AⅢ(ダイバーシティ) 教育実践課題解決研究AⅣ(ダイバーシティ) 教育実践課題解決研究BⅠ(ダイバーシティ) 教育実践課題解決研究BⅡ(ダイバーシティ) 教育実践課題解決研究BⅢ(ダイバーシティ) 教育実践課題解決研究BⅣ(ダイバーシティ)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
実専	特任教授	田村 靖二 (64) <平成29年4月> 修士(教育学)
		滋賀の教育課題と指導方法 ※ 生徒指導・教育相談の理論と実践 実践課題解決基本実習Ⅰ 実践課題解決基本実習Ⅱ 実践課題解決発展実習 研修開発実習 教育委員会実習 学校組織マネジメント研究 教育政策・教育行政の理論と実践 教育法規の理論と実践 社会的・職業的自立を支援する 進路指導とキャリア教育

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
		岸田 蘭子 (61) <令和3年4月> 修士(教育学)
実専	特任教授	学びの基盤となる学級経営の探究 学校経営の理論と実践 実践課題解決基本実習Ⅰ 実践課題解決基本実習Ⅱ 実践課題解決発展実習 研修開発実習 教育委員会実習 教育方法の開発と実践研究 学校教育のアクションリサーチ 実践入門実習 授業実践基本実習Ⅰ 授業実践基本実習Ⅱ 授業実践基本実習Ⅲ 授業実践発展実習 教育実践課題解決研究Ⅰ(教育実践) 教育実践課題解決研究Ⅱ(教育実践) 教育実践課題解決研究Ⅲ(教育実践) 教育実践課題解決研究Ⅳ(教育実践) 教育実践課題解決研究Ⅰ(授業実践) 教育実践課題解決研究Ⅱ(授業実践) 教育実践課題解決研究Ⅲ(授業実践) 教育実践課題解決研究Ⅳ(授業実践) ダイバーシティ教育基本実習 ダイバーシティ教育発展実習 教育実践課題解決研究AⅠ(ダイバーシティ) 教育実践課題解決研究AⅡ(ダイバーシティ) 教育実践課題解決研究AⅢ(ダイバーシティ) 教育実践課題解決研究AⅣ(ダイバーシティ) 教育実践課題解決研究BⅠ(ダイバーシティ) 教育実践課題解決研究BⅡ(ダイバーシティ) 教育実践課題解決研究BⅢ(ダイバーシティ) 教育実践課題解決研究BⅣ(ダイバーシティ)
		田村 靖二 (64) <平成29年4月> 修士(教育学)
実専	特任教授	滋賀の教育課題と指導方法 ※ 生徒指導・教育相談の理論と実践 実践課題解決基本実習Ⅰ 実践課題解決基本実習Ⅱ 実践課題解決発展実習 研修開発実習 教育委員会実習 学校組織マネジメント研究 教育政策・教育行政の理論と実践 教育法規の理論と実践 社会的・職業的自立を支援する 進路指導とキャリア教育

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実専	准教授	今井弘樹 (62) ＜令和2年4月＞ 修士(学校教育学)
		滋賀の教育課題と指導方法 ※ 学校経営の理論と実践 現代社会の課題と教員役割 ※ 経営課題解決基本実習Ⅰ 経営課題解決基本実習Ⅱ 経営課題解決発展実習 地域協働実習 教育行政実習 学校経営と教育リーダーシップ 教職員の職能開発システムに関する実践的研究 カリキュラムマネジメントと校内研修 教育政策・教育行政の理論と実践 学校安全・学校危機管理に関する実践的研究 学校と地域の連携協働に関する実践的研究 教育実践課題解決研究Ⅰ(経営) 教育実践課題解決研究Ⅱ(経営) 教育実践課題解決研究Ⅲ(経営) 教育実践課題解決研究Ⅳ(経営)
実専	准教授	畑稔彦 (52) ＜平成29年4月＞ 教育学士
		教育課程編成の理論と実践 授業実践の探究と教育課程 確かな学力を伸ばす指導と評価 メディア活用実践研究 ※ 学びの基盤となる学級経営の探究 学校教育におけるデータサイエンス 実践課題解決基本実習Ⅰ 実践課題解決基本実習Ⅱ 実践課題解決発展実習 研修開発実習 学校支援実習Ⅰ 学校支援実習Ⅱ 学校支援実習Ⅲ 学校支援実習Ⅳ 学校支援実習Ⅴ 学校支援実習Ⅵ 海外連携校実習Ⅰ【隔年】 海外連携校実習Ⅱ【隔年】 教育方法の開発と実践研究 メンタリングと校内研修 学校教育のアクションリサーチ 教育実践課題解決研究Ⅰ(教育実践) 教育実践課題解決研究Ⅱ(教育実践) 教育実践課題解決研究Ⅲ(教育実践) 教育実践課題解決研究Ⅳ(教育実践)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実専	教授	今井弘樹 (62) ＜令和2年4月＞ 修士(学校教育学)
		滋賀の教育課題と指導方法 ※ 学校経営の理論と実践 現代社会の課題と教員役割 ※ 経営課題解決基本実習Ⅰ 経営課題解決基本実習Ⅱ 経営課題解決発展実習 地域協働実習 教育行政実習 学校経営と教育リーダーシップ 教職員の職能開発システムに関する実践的研究 カリキュラムマネジメントと校内研修 教育政策・教育行政の理論と実践 学校安全・学校危機管理に関する実践的研究 学校と地域の連携協働に関する実践的研究 教育実践課題解決研究Ⅰ(経営) 教育実践課題解決研究Ⅱ(経営) 教育実践課題解決研究Ⅲ(経営) 教育実践課題解決研究Ⅳ(経営)
実専	准教授	畑稔彦 (52) ＜平成29年4月＞ 教育学士
		教育課程編成の理論と実践 授業実践の探究と教育課程 確かな学力を伸ばす指導と評価 メディア活用実践研究 ※ 学びの基盤となる学級経営の探究 学校教育におけるデータサイエンス 実践課題解決基本実習Ⅰ 実践課題解決基本実習Ⅱ 実践課題解決発展実習 研修開発実習 学校支援実習Ⅰ 学校支援実習Ⅱ 学校支援実習Ⅲ 学校支援実習Ⅳ 学校支援実習Ⅴ 学校支援実習Ⅵ 海外連携校実習Ⅰ【隔年】 海外連携校実習Ⅱ【隔年】 教育方法の開発と実践研究 メンタリングと校内研修 学校教育のアクションリサーチ 教育実践課題解決研究Ⅰ(教育実践) 教育実践課題解決研究Ⅱ(教育実践) 教育実践課題解決研究Ⅲ(教育実践) 教育実践課題解決研究Ⅳ(教育実践)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
		大橋 宏星 (45) <令和3年4月> 修士(教育学)
実専	准教授	教育課程編成の理論と実践 確かな学力を伸ばす指導と評価 学校教育におけるデータサイエンス 実践課題解決基本実習 I 実践課題解決基本実習 II 実践課題解決発展実習 研修開発実習 実践入門実習 授業実践基本実習 I 授業実践基本実習 II 授業実践基本実習 III 授業実践発展実習 学校支援実習 I 学校支援実習 II 学校支援実習 III 学校支援実習 IV 学校支援実習 V 学校支援実習 VI 教師のキャリア発達と教育実践 プログラミング教育の実践と教材開発 海外連携校実習 I 【隔年】 海外連携校実習 II 【隔年】 教育方法の開発と実践研究 教育実践課題解決研究 I (教育実践) 教育実践課題解決研究 II (教育実践) 教育実践課題解決研究 III (教育実践) 教育実践課題解決研究 IV (教育実践) 教育実践課題解決研究 I (授業実践) 教育実践課題解決研究 II (授業実践) 教育実践課題解決研究 III (授業実践) 教育実践課題解決研究 IV (授業実践) ダイバーシティ教育基本実習 ダイバーシティ教育発展実習 教育実践課題解決研究 A I (ダイバーシティ) 教育実践課題解決研究 A II (ダイバーシティ) 教育実践課題解決研究 A III (ダイバーシティ) 教育実践課題解決研究 A IV (ダイバーシティ) 教育実践課題解決研究 B I (ダイバーシティ) 教育実践課題解決研究 B II (ダイバーシティ) 教育実践課題解決研究 B III (ダイバーシティ) 教育実践課題解決研究 B IV (ダイバーシティ)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実み	教授	石田 博士 (57) ＜令和3年4月＞ 教育学士
		実践入門実習 授業実践基本実習Ⅰ 授業実践基本実習Ⅲ 授業実践発展実習 学校支援実習Ⅰ 学校支援実習Ⅱ 学校支援実習Ⅲ 学校支援実習Ⅳ 学校支援実習Ⅴ 学校支援実習Ⅵ 教師のキャリア発達と教育実践 ※ プログラミング教育の実践と教材開発 教育実践課題解決研究Ⅰ(授業実践) 教育実践課題解決研究Ⅱ(授業実践) 教育実践課題解決研究Ⅲ(授業実践) 教育実践課題解決研究Ⅳ(授業実践)
実み	教授	黒川 俊文 (54) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)
		実践入門実習 授業実践基本実習Ⅰ 授業実践基本実習Ⅲ 授業実践発展実習 学校支援実習Ⅰ 学校支援実習Ⅱ 学校支援実習Ⅲ 学校支援実習Ⅳ 学校支援実習Ⅴ 学校支援実習Ⅵ 教師のキャリア発達と教育実践 ※ プログラミング教育の実践と教材開発 教育実践課題解決研究Ⅰ(授業実践) 教育実践課題解決研究Ⅱ(授業実践) 教育実践課題解決研究Ⅲ(授業実践) 教育実践課題解決研究Ⅳ(授業実践)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実み	教授	澤田 一彦 (54) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)
		実践入門実習 授業実践基本実習Ⅰ 授業実践基本実習Ⅲ 授業実践発展実習 学校支援実習Ⅰ 学校支援実習Ⅱ 学校支援実習Ⅲ 学校支援実習Ⅳ 学校支援実習Ⅴ 学校支援実習Ⅵ 教育実践課題解決研究Ⅰ(授業実践) 教育実践課題解決研究Ⅱ(授業実践) 教育実践課題解決研究Ⅲ(授業実践) 教育実践課題解決研究Ⅳ(授業実践)
実み	教授	黒川 俊文 (54) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)
		実践入門実習 授業実践基本実習Ⅰ 授業実践基本実習Ⅲ 授業実践発展実習 学校支援実習Ⅰ 学校支援実習Ⅱ 学校支援実習Ⅲ 学校支援実習Ⅳ 学校支援実習Ⅴ 学校支援実習Ⅵ <del>教師のキャリア発達と教育実践</del> ※ プログラミング教育の実践と教材開発 教育実践課題解決研究Ⅰ(授業実践) 教育実践課題解決研究Ⅱ(授業実践) 教育実践課題解決研究Ⅲ(授業実践) 教育実践課題解決研究Ⅳ(授業実践)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
実み	教授	西村佳子 (58) <令和3年4月> 教育学士
		実践入門実習 授業実践基本実習Ⅰ 授業実践基本実習Ⅲ 授業実践発展実習 学校支援実習Ⅰ 学校支援実習Ⅱ 学校支援実習Ⅲ 学校支援実習Ⅳ 学校支援実習Ⅴ 学校支援実習Ⅵ ダイバーシティ教育基本実習 幼年教育の理論と実践 教育・保育の方法と省察 教育実践課題解決研究AⅠ(ダイバーシティ) 教育実践課題解決研究AⅡ(ダイバーシティ) 教育実践課題解決研究AⅢ(ダイバーシティ) 教育実践課題解決研究AⅣ(ダイバーシティ)
実み	教授	細谷亜紀子 (56) <令和3年4月> 修士(教育学)
		学校支援実習Ⅰ 学校支援実習Ⅱ 学校支援実習Ⅲ 学校支援実習Ⅳ 学校支援実習Ⅴ 学校支援実習Ⅵ ダイバーシティ教育基本実習 特別支援実習 子どもの発達と支援 ※
実み	准教授	川島民子 (49) <平成29年4月> 修士(教育学)
		ダイバーシティ教育の理論と実践 実践課題解決基本実習Ⅰ 実践課題解決基本実習Ⅱ 実践課題解決発展実習 授業実践基本実習Ⅱ ダイバーシティ教育基本実習 特別支援実習 フィールドワーク実習 心理アセスメント実習 ダイバーシティ教育発展実習 海外連携校実習Ⅰ【隔年】 海外連携校実習Ⅱ【隔年】 スペシャルニーズ教育の理論と実践 子どもの心の臨床心理学的理解と支援 ※ 心理的アセスメントと子ども支援 ※ 特別支援教育の臨床的探究 幼年教育の理論と実践 教育実践課題解決研究BⅠ(ダイバーシティ) 教育実践課題解決研究BⅡ(ダイバーシティ) 教育実践課題解決研究BⅢ(ダイバーシティ) 教育実践課題解決研究BⅣ(ダイバーシティ)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
実み	教授	西村佳子 (58) <令和3年4月> 教育学士
		実践入門実習 授業実践基本実習Ⅰ 授業実践基本実習Ⅲ 授業実践発展実習 学校支援実習Ⅰ 学校支援実習Ⅱ 学校支援実習Ⅲ 学校支援実習Ⅳ 学校支援実習Ⅴ 学校支援実習Ⅵ <b>ダイバーシティ教育基本実習</b> <b>ダイバーシティ教育発展実習</b> 幼年教育の理論と実践 教育・保育の方法と省察 教育実践課題解決研究AⅠ(ダイバーシティ) 教育実践課題解決研究AⅡ(ダイバーシティ) 教育実践課題解決研究AⅢ(ダイバーシティ) 教育実践課題解決研究AⅣ(ダイバーシティ)
実み	教授	細谷亜紀子 (57) <令和3年4月> 修士(教育学)
		学校支援実習Ⅰ 学校支援実習Ⅱ 学校支援実習Ⅲ 学校支援実習Ⅳ 学校支援実習Ⅴ 学校支援実習Ⅵ <b>ダイバーシティ教育基本実習</b> 特別支援実習 子どもの発達と支援 ※

専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名

専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
		<p style="text-align: center;"><b>山 川 直 孝</b> (46) &lt;令和3年4月&gt; 教職修士(専門職)</p>
実み	准教授	<p>ダイバーシティ教育の理論と実践            実践課題解決基本実習Ⅰ            実践課題解決基本実習Ⅱ            実践課題解決発展実習            研修開発実習            実践入門実習            授業実践基本実習Ⅰ            授業実践基本実習Ⅱ            授業実践基本実習Ⅲ            授業実践発展実習            教育実践課題解決研究Ⅰ(授業実践)            教育実践課題解決研究Ⅱ(授業実践)            教育実践課題解決研究Ⅲ(授業実践)            教育実践課題解決研究Ⅳ(授業実践)            ダイバーシティ教育基本実習            特別支援実習            フィールドワーク実習            心理アセスメント実習            ダイバーシティ教育発展実習            海外連携校実習Ⅰ【隔年】            海外連携校実習Ⅱ【隔年】            スペシャルニーズ教育の理論と実践            特別支援教育の臨床的探究            幼年教育の理論と実践            教育実践課題解決研究Ⅰ(教育実践)            教育実践課題解決研究Ⅱ(教育実践)            教育実践課題解決研究Ⅲ(教育実践)            教育実践課題解決研究Ⅳ(教育実践)            教育実践課題解決研究AⅠ(ダイバーシティ)            教育実践課題解決研究AⅡ(ダイバーシティ)            教育実践課題解決研究AⅢ(ダイバーシティ)            教育実践課題解決研究AⅣ(ダイバーシティ)            教育実践課題解決研究BⅠ(ダイバーシティ)            教育実践課題解決研究BⅡ(ダイバーシティ)            教育実践課題解決研究BⅢ(ダイバーシティ)            教育実践課題解決研究BⅣ(ダイバーシティ)</p>

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
実み	准教授	白石 牧 恵 (46) <平成31年4月> 教育学士 教育課程編成の理論と実践 確かな学力を伸ばす指導と評価 実践課題解決基本実習Ⅰ 実践課題解決基本実習Ⅱ 実践課題解決発展実習 研修開発実習 教育委員会実習 授業実践基本実習Ⅱ 海外連携校実習Ⅰ【隔年】 海外連携校実習Ⅱ【隔年】 教育方法の開発と実践研究 メンタリングと校内研修 学校教育のアクションリサーチ 教育実践課題解決研究Ⅰ(教育実践) 教育実践課題解決研究Ⅱ(教育実践) 教育実践課題解決研究Ⅲ(教育実践) 教育実践課題解決研究Ⅳ(教育実践) 初等言語教育の理論と実践 ※
		石川 俊 之 (47) <令和3年4月> 博士(理学) 初等生活科・家庭科教育の理論と実践 ※
		糸 乗 前 (55) <令和3年4月> 博士(農学) 理科の発展的理解と指導法 ※ 理科観察実験研究「物質・エネルギー」 ※
		犬 伏 純 子 (64) <令和3年4月> 芸術学修士 音楽科教材開発研究「表現」※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
実み	准教授	白石 牧 恵 (46) <平成31年4月> 教育学士 教育課程編成の理論と実践 確かな学力を伸ばす指導と評価 実践課題解決基本実習Ⅰ 実践課題解決基本実習Ⅱ 実践課題解決発展実習 研修開発実習 教育委員会実習 <b>実践入門実習</b> <b>授業実践基本実習Ⅰ</b> 授業実践基本実習Ⅱ <b>授業実践基本実習Ⅲ</b> <b>授業実践発展実習</b> <b>ダイバーシティ教育基本実習</b> <b>ダイバーシティ教育発展実習</b> 海外連携校実習Ⅰ【隔年】 海外連携校実習Ⅱ【隔年】 教育方法の開発と実践研究 メンタリングと校内研修 <b>学校教育のアクションリサーチ</b> 教育実践課題解決研究Ⅰ(教育実践) 教育実践課題解決研究Ⅱ(教育実践) 教育実践課題解決研究Ⅲ(教育実践) 教育実践課題解決研究Ⅳ(教育実践) 初等言語教育の理論と実践 ※ <b>教育実践課題解決研究Ⅰ(授業実践)</b> <b>教育実践課題解決研究Ⅱ(授業実践)</b> <b>教育実践課題解決研究Ⅲ(授業実践)</b> <b>教育実践課題解決研究Ⅳ(授業実践)</b> <b>教育実践課題解決研究AⅠ(ダイバーシティ)</b> <b>教育実践課題解決研究AⅡ(ダイバーシティ)</b> <b>教育実践課題解決研究AⅢ(ダイバーシティ)</b> <b>教育実践課題解決研究AⅣ(ダイバーシティ)</b> <b>教育実践課題解決研究BⅠ(ダイバーシティ)</b> <b>教育実践課題解決研究BⅡ(ダイバーシティ)</b> <b>教育実践課題解決研究BⅢ(ダイバーシティ)</b> <b>教育実践課題解決研究BⅣ(ダイバーシティ)</b>
		石川 俊 之 (47) <令和3年4月> 博士(理学) 初等生活科・家庭科教育の理論と実践 ※
		糸 乗 前 (56) <令和3年4月> 博士(農学) 理科の発展的理解と指導法 ※ 理科観察実験研究「物質・エネルギー」 ※
		犬 伏 純 子 (64) <令和3年4月> 芸術学修士 音楽科教材開発研究「表現」※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	教授	井ノ口(坪井) 史 (50) ＜令和3年4月＞ 博士(文学)
		古典教育と教材開発研究 ※
兼担	教授	宇佐見 隆之 (55) ＜令和3年4月＞ 博士(文学)
		社会科・地理歴史科教材開発研究 ※
兼担	教授	江原 寛昭 (62) ＜令和3年4月＞ 医学博士
		フィールドワーク実習 障害児の病理と教育支援 【隔年】 障害児の病理と健康支援 【隔年】 子どもの発達と支援 ※
兼担	教授	大嶋 秀樹 (62) ＜令和3年4月＞ 博士(国際文化)
		初等言語教育の理論と実践 ※
兼担	教授	大清水 裕 (42) ＜令和3年4月＞ 博士(文学)
		社会科・地理歴史科教材開発研究 ※
兼担	教授	加納 圭 (40) ＜令和3年4月＞ 博士(生命科学)
		初等理数教育の理論と実践 ※
兼担	教授	児玉(中野) 奈々 (46) ＜令和3年4月＞ 博士(教育学)
		ダイバーシティ教育の理論と実践 フィールドワーク実習 海外連携校実習Ⅰ 【隔年】 海外連携校実習Ⅱ 【隔年】 外国人児童生徒教育の理論と実践
兼担	教授	齋藤 浩文 (57) ＜令和3年4月＞ 理学修士
		社会科・公民科教材開発研究 ※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	教授	井ノ口(坪井) 史 (50) ＜令和3年4月＞ 博士(文学)
		古典教育と教材開発研究 ※
兼担	教授	宇佐見 隆之 (55) ＜令和3年4月＞ 博士(文学)
		社会科・地理歴史科教材開発研究 ※
兼担	教授	江原 寛昭 (62) ＜令和3年4月＞ 医学博士
		フィールドワーク実習 障害児の病理と教育支援 【隔年】 障害児の病理と健康支援 【隔年】 子どもの発達と支援 ※
兼担	教授	大嶋 秀樹 (62) ＜令和3年4月＞ 博士(国際文化)
		初等言語教育の理論と実践 ※
兼担	教授	大清水 裕 (42) ＜令和3年4月＞ 博士(文学)
		社会科・地理歴史科教材開発研究 ※
兼担	教授	加納 圭 (41) ＜令和3年4月＞ 博士(生命科学)
		初等理数教育の理論と実践 ※
兼担	教授	児玉(中野) 奈々 (46) ＜令和3年4月＞ 博士(教育学)
		ダイバーシティ教育の理論と実践 フィールドワーク実習 海外連携校実習Ⅰ 【隔年】 海外連携校実習Ⅱ 【隔年】 外国人児童生徒教育の理論と実践
兼担	教授	齋藤 浩文 (57) ＜令和3年4月＞ 理学修士
		社会科・公民科教材開発研究 ※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	教授	白石 恵理子 (61) ＜平成29年4月＞ 教育学修士
		特別支援実習 心理アセスメント実習 特別支援教育の臨床的探究 特別支援教育授業研究【隔年】 障害児の発達診断・発達相談演習【隔年】
兼担	教授	神 直 人 (59) ＜令和3年4月＞ 博士(理学)
		算数・数学科教材開発研究「関数」※【隔年】 数学の実験を活かした数学教育※【隔年】
兼担	教授	鈴木 宏 昌 (54) ＜令和3年4月＞ 博士(理学)
		算数・数学科教材開発研究「関数」※【隔年】 数学の実験を活かした数学教育※【隔年】
兼担	教授	田 中 宏 子 (59) ＜令和3年4月＞ 学術博士
		初等生活科・家庭科教育の理論と実践 ※ 家庭科教育教材開発研究 ※
兼担	教授	恒 川 雅 典 (49) ＜令和3年4月＞ 博士(工学)
		理科の発展的理解と指導法 ※ 理科観察実験研究「物質・エネルギー」 ※
兼担	教授	徳 田 陽 明 (47) ＜令和3年4月＞ 博士(工学)
		理科の発展的理解と指導法 ※ 理科観察実験研究「物質・エネルギー」 ※
兼担	教授	中 村 史 朗 (60) ＜令和3年4月＞ 修士(芸術学)
		言語教育実践と教材開発研究 ※
兼担	教授	新 関 伸 也 (61) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)
		美術科教材開発研究「美術鑑賞」 ※
兼担	教授	二宮(鈴木) 美那子 (43) ＜令和3年4月＞ 博士(文学)
		古典教育と教材開発研究 ※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	教授	白石 恵理子 (61) ＜平成29年4月＞ 教育学修士
		<b>特別支援実習</b> 心理アセスメント実習 特別支援教育の臨床的探究 特別支援教育授業研究【隔年】 障害児の発達診断・発達相談演習【隔年】
兼担	教授	神 直 人 (59) ＜令和3年4月＞ 博士(理学)
		算数・数学科教材開発研究「関数」※【隔年】 数学の実験を活かした数学教育※【隔年】
兼担	教授	鈴木 宏 昌 (54) ＜令和3年4月＞ 博士(理学)
		算数・数学科教材開発研究「関数」※【隔年】 数学の実験を活かした数学教育※【隔年】
兼担	教授	田 中 宏 子 (59) ＜令和3年4月＞ 学術博士
		初等生活科・家庭科教育の理論と実践 ※ 家庭科教育教材開発研究 ※
兼担	教授	恒 川 雅 典 (49) ＜令和3年4月＞ 博士(工学)
		理科の発展的理解と指導法 ※ 理科観察実験研究「物質・エネルギー」 ※
兼担	教授	徳 田 陽 明 (47) ＜令和3年4月＞ 博士(工学)
		理科の発展的理解と指導法 ※ 理科観察実験研究「物質・エネルギー」 ※
兼担	教授	中 村 史 朗 (60) ＜令和3年4月＞ 修士(芸術学)
		言語教育実践と教材開発研究 ※
兼担	教授	新 関 伸 也 (61) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)
		美術科教材開発研究「美術鑑賞」 ※
兼担	教授	二宮(鈴木) 美那子 (43) ＜令和3年4月＞ 博士(文学)
		古典教育と教材開発研究 ※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	教授	服部 昭尚 (58) ＜令和3年4月＞ 博士(理学)
		理科の発展的理解と指導法 ※ 理科観察実験研究「生命・地球」 ※
兼担	教授	板東 美智子 (63) ＜令和3年4月＞ 博士(言語文化学)
		言語学理論と英語科教材開発への応用
兼担	教授	馬場(橋本) 義弘 (60) ＜令和3年4月＞ 法学修士※
		社会科・公民科教材開発研究 ※
兼担	教授	藤田 昌宏 (58) ＜令和3年4月＞ 学士(教育)
		美術科教材開発研究「造形表現」 ※ 美術科教材開発研究「美術鑑賞」 ※
兼担	教授	古橋 潔 (60) ＜令和3年4月＞ 理学博士
		理科の発展的理解と指導法 ※ 理科観察実験研究「生命・地球」 ※
兼担	教授	松田 繁樹 (43) ＜令和3年4月＞ 博士(学術)
		体力科学実践研究 ※
兼担	教授	松田 隆典 ＜令和3年4月＞ 文学修士
		社会科・地理歴史科教材開発研究 ※
兼担	教授	松丸 真大 (47) ＜令和3年4月＞ 修士(文学)
		言語教育実践と教材開発研究 ※
兼担	教授	右田 正夫 (52) ＜令和3年4月＞ 博士(理学)
		プログラミング教育の実践と教材開発

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	教授	服部 昭尚 (58) ＜令和3年4月＞ 博士(理学)
		理科の発展的理解と指導法 ※ 理科観察実験研究「生命・地球」 ※
兼担	教授	板東 美智子 (63) ＜令和3年4月＞ 博士(言語文化学)
		言語学理論と英語科教材開発への応用
兼担	教授	馬場(橋本) 義弘 (61) ＜令和3年4月＞ 法学修士※
		社会科・公民科教材開発研究 ※
兼担	教授	藤田 昌宏 (58) ＜令和3年4月＞ 学士(教育)
		美術科教材開発研究「造形表現」 ※ 美術科教材開発研究「美術鑑賞」 ※
兼担	教授	古橋 潔 (60) ＜令和3年4月＞ 理学博士
		理科の発展的理解と指導法 ※ 理科観察実験研究「生命・地球」 ※
兼担	教授	松田 繁樹 (43) ＜令和3年4月＞ 博士(学術)
		体力科学実践研究 ※
兼担	教授	松田 隆典 (62) ＜令和3年4月＞ 文学修士
		社会科・地理歴史科教材開発研究 ※
兼担	教授	松丸 真大 (47) ＜令和3年4月＞ 修士(文学)
		言語教育実践と教材開発研究 ※
兼担	教授	右田 正夫 (52) ＜令和3年4月＞ 博士(理学)
		プログラミング教育の実践と教材開発

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	教授	水上 善博 (59) ＜令和3年4月＞ 工学博士
		技術科教育教材開発研究 ※
兼担	教授	三輪 貴美枝 (54) ＜令和3年4月＞ 博士(教育学)
		ダイバーシティ教育の理論と実践
兼担	教授	與倉 弘子 (62) ＜令和3年4月＞ 学術博士
		初等生活科・家庭科教育の理論と実践 ※ 家庭科教育教材開発研究 ※
兼担	教授	世ノ一 善生 (55) ＜令和3年4月＞ 修士(デザイン学)
		美術科教材開発研究「造形表現」 ※ 美術科教材開発研究「美術鑑賞」 ※
兼担	教授	若林 千春 (60) ＜令和3年4月＞ 芸術学修士
		音楽科教材開発研究「鑑賞」 ※
兼担	教授	渡邊 暁彦 (50) ＜令和3年4月＞ 修士(法学) ※
		教育法規の理論と実践 社会科・公民科教材開発研究 ※
兼担	准教授	安藤 哲郎 (41) ＜令和3年4月＞ 博士(人間・環境学)
		社会科・地理歴史科教材開発研究 ※
兼担	准教授	岩井 憲一 (54) ＜令和3年4月＞ 博士(工学)
		メディア活用実践研究 ※
兼担	准教授	于 一 楽 (37) ＜令和3年4月＞ 博士(文学)
		言語学理論と英語科教材開発への応用

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	教授	水上 善博 (59) ＜令和3年4月＞ 工学博士
		技術科教育教材開発研究 ※
兼担	教授	三輪 貴美枝 (54) ＜令和3年4月＞ 博士(教育学)
		ダイバーシティ教育の理論と実践
兼担	教授	與倉 弘子 (62) ＜令和3年4月＞ 学術博士
		初等生活科・家庭科教育の理論と実践 ※ 家庭科教育教材開発研究 ※
兼担	教授	世ノ一 善生 (55) ＜令和3年4月＞ 修士(デザイン学)
		美術科教材開発研究「造形表現」 ※ 美術科教材開発研究「美術鑑賞」 ※
兼担	教授	若林 千春 (60) ＜令和3年4月＞ 芸術学修士
		音楽科教材開発研究「鑑賞」 ※
兼担	教授	渡邊 暁彦 (50) ＜令和3年4月＞ 修士(法学) ※
		教育法規の理論と実践 社会科・公民科教材開発研究 ※
兼担	准教授	安藤 哲郎 (41) ＜令和3年4月＞ 博士(人間・環境学)
		社会科・地理歴史科教材開発研究 ※
兼担	准教授	岩井 憲一 (54) ＜令和3年4月＞ 博士(工学)
		メディア活用実践研究 ※
兼担	准教授	于 一 楽 (37) ＜令和3年4月＞ 博士(文学)
		言語学理論と英語科教材開発への応用

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	大平 雅子 (38) <令和3年4月> 博士(医学)
		初等体育科教育の理論と実践 ※ 健康科学実践研究 ※
兼任	准教授	大山 政光 (52) <令和3年4月> 博士(理学)
		理科の発展的理解と指導法 ※ 理科観察実験研究「生命・地球」 ※
兼任	准教授	蔵 永(福島) 瞳 (36) <令和3年4月> 博士(心理学)
		学びの基盤となる学級経営の探究
兼任	准教授	篠原 雅史 (44) <令和3年4月> 博士(数理学)
		学校教育におけるデータサイエンス 算数・数学科教材開発研究「数と形」 ※ 【隔年】 数学の歴史を活かした数学教育 ※ 【隔年】
兼任	准教授	田中(植野) 佑美 (44) <令和3年4月> 修士(地域研究)
		初等言語教育の理論と実践 ※
兼任	准教授	中根 庸介 (44) <令和3年4月> 修士(音楽)
		音楽科教材開発研究「鑑賞」 ※
兼任	准教授	長谷川 武博 (43) <令和3年4月> 博士(理学)
		算数・数学科教材開発研究「数と形」 ※ 【隔年】 数学の歴史を活かした数学教育 ※ 【隔年】
兼任	准教授	林 直生 (50) <令和3年4月> 修士(文学) ※
		英米文学と英語科教材開発への応用

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	大平 雅子 (38) <令和3年4月> 博士(医学)
		初等体育科教育の理論と実践 ※ 健康科学実践研究 ※
兼任	准教授	大山 政光 (52) <令和3年4月> 博士(理学)
		理科の発展的理解と指導法 ※ 理科観察実験研究「生命・地球」 ※
兼任	准教授	奥村 太一 (39) <令和3年4月> 博士(教育学)
		学校教育におけるデータサイエンス
兼任	准教授	蔵 永(福島) 瞳 (36) <令和3年4月> 博士(心理学)
		学びの基盤となる学級経営の探究
兼任	准教授	篠原 雅史 (44) <令和3年4月> 博士(数理学)
		学校教育におけるデータサイエンス 算数・数学科教材開発研究「数と形」 ※ 【隔年】 数学の歴史を活かした数学教育 ※ 【隔年】
兼任	准教授	田中(植野) 佑美 (44) <令和3年4月> 修士(地域研究)
		初等言語教育の理論と実践 ※
兼任	准教授	中根 庸介 (44) <令和3年4月> 修士(音楽)
		音楽科教材開発研究「鑑賞」 ※
兼任	准教授	長谷川 武博 (43) <令和3年4月> 博士(理学)
		算数・数学科教材開発研究「数と形」 ※ 【隔年】 数学の歴史を活かした数学教育 ※ 【隔年】
兼任	准教授	林 直生 (50) <令和3年4月> 修士(文学) ※
		英米文学と英語科教材開発への応用

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	羽山裕子 (34) ＜令和3年4月＞ 博士(教育学)
		心理アセスメント実習 特別支援教育の教育方法的探 究【隔年】 特別支援教育の現代的実践と課 題【隔年】
兼任	准教授	平松紀代子 (52) ＜令和3年4月＞ 博士(学術)
		初等生活科・家庭科教育の理論 と実践 ※ 家庭科教育教材開発研究 ※
兼任	准教授	宮本(林)結佳 (40) ＜令和3年4月＞ 博士(社会科学)
		社会科・公民科教材開発研究 ※
兼任	准教授	森太郎 (39) ＜令和3年4月＞ 博士(環境共生学)
		初等生活科・家庭科教育の理論 と実践 ※ 技術科教育教材開発研究 ※
兼任	准教授	山本一成 (37) ＜令和3年4月＞ 博士(教育学)
		ダイバーシティ教育基本実習 教育・保育の方法と省察
兼任	准教授	渡邊史 (47) ＜令和3年4月＞ 修士(音楽)
		音楽科教材開発研究「表現」 ※
兼任	准教授	渡邊慶子 (39) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)
		初等理数教育の理論と実践 ※

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	羽山裕子 (34) ＜令和3年4月＞ 博士(教育学)
		<b>特別支援実習</b> <b>心理アセスメント実習</b> 特別支援教育の教育方法的探 究【隔年】 特別支援教育の現代的実践と課 題【隔年】
兼任	准教授	平松紀代子 (52) ＜令和3年4月＞ 博士(学術)
		初等生活科・家庭科教育の理論 と実践 ※ 家庭科教育教材開発研究 ※
兼任	准教授	宮本(林)結佳 (40) ＜令和3年4月＞ 博士(社会科学)
		社会科・公民科教材開発研究 ※
兼任	准教授	森太郎 (39) ＜令和3年4月＞ 博士(環境共生学)
		初等生活科・家庭科教育の理論 と実践 ※ 技術科教育教材開発研究 ※
兼任	准教授	山本一成 (37) ＜令和3年4月＞ 博士(教育学)
		ダイバーシティ教育基本実習 教育・保育の方法と省察
兼任	准教授	渡邊史 (47) ＜令和3年4月＞ 修士(音楽)
		音楽科教材開発研究「表現」 ※
兼任	准教授	渡邊慶子 (39) ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)
		初等理数教育の理論と実践 ※

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	河原 恵 (70) <令和3年4月> 修士(文学)
		学校経営の理論と実践 経営課題解決基本実習Ⅰ 経営課題解決基本実習Ⅱ 経営課題解決発展実習 地域協働実習 教育行政実習 学校経営と教育リーダーシップ 学校安全・学校危機管理に関する実践的研究 教育実践課題解決研究Ⅰ(経営) 教育実践課題解決研究Ⅱ(経営) 教育実践課題解決研究Ⅲ(経営)

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
  - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
- その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。**
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
  - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
  - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実み)、兼任、兼任の順に記入してください。
  - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和3年度】

- ・松島明日香専任教員が講師から准教授に昇任。
- ・今井弘樹実務家専任教員が准教授から教授に昇任。
- ・青木善治実務家専任教授採用。
- ・大橋宏星実務家専任准教授採用。(畑稔彦実務家専任准教授の後任)(人事交流)
- ・岸田蘭子実務家特任教授採用。
- ・澤田一彦実務家みなし教授採用。(石田博士実務家みなし教授の後任)(人事交流)
- ・山川直孝実務家みなし准教授採用。(川島民子実務家みなし准教授の後任)(人事交流)
- ・大平雅子兼担教員が准教授から教授に昇任。
- ・奥村太一兼担教員採用。
- ・河原恵兼任教員辞任。

- (注)
- ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
  - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
  - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度(令和元年度開設であれば平成30年度)の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	専任教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	専任教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要実務家教員数
15	9	6
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【教職大学院】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計(A)	助手(A')	教授	准教授	講師	助教	計(B)	助手(B')
18	9	1	0	28	0	21	9	0	0	30	0
(21)	(9)	(0)	(0)	(30)	(0)						
研究者教員数	実務家教員数	講義のみ担当の教員数	/			研究者教員数	実務家教員数	講義のみ担当の教員数	/		
19	9	54				19	11	54			
(19)	(11)	(0)			(19)	(11)	(0)				
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計(C)	助手(C')	教授	准教授	講師	助教	計(D)	助手(D')
21	9	0	0	30	0	21	9	0	0	30	0
[3]	[0]	[Δ1]	[0]	[2]	[0]	[3]	[0]	[Δ1]	[0]	[2]	[0]
研究者教員数	実務家教員数	講義のみ担当の教員数	/			研究者教員数	実務家教員数	講義のみ担当の教員数	/		
19	11	54				19	11	54			
[0]	[2]	[0]			[0]	[2]	[0]				

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( ) 内に開設時の状況を記入してください。  
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。  
 ・ 「**現在（報告時）の完成年度時の状況**」には、「**現在（報告時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）  
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告時（上記(B)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(C)）の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。  
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{30}{28} = \boxed{107.14} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{30} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
								選択	実践入門実習	①
1	教授	石田 博士	R3.3	選択	授業実践基本実習 I	①	R3.3.31付け、人事交流により退職のため辞任（R3）			
				選択	授業実践基本実習 III	①				
				選択	授業実践発展実習	①				
				選択	学校支援実習 I	①				
				選択	学校支援実習 II	①				
				選択	学校支援実習 III	①				
				選択	学校支援実習 IV	①				
				選択	学校支援実習 V	①				
				選択	学校支援実習 VI	①				
				選択	教師のキャリア発達と教育実践	①				
				選択	プログラミング教育の実践と教材開発	①				
				選択	教育実践課題解決研究 I（授業実践）	①				
				選択	教育実践課題解決研究 II（授業実践）	①				
				選択	教育実践課題解決研究 III（授業実践）	①				
選択	教育実践課題解決研究 IV（授業実践）	①								
合計（D）					後任補充状況の集計（E）					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
1	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	16	科目	選択	16	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	16	科目	計	16	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。  
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
1	准教授	畑 稔彦	R3.3	必修	授業実践の探究と教育課程	①	R3.3.31付け、人事交流により退職のため辞任（R3）
				必修	確かな学力を伸ばす指導と評価	①	
				必修	メディア活用実践研究	①	
				必修	学びの基礎となる学級経営の探究	①	
				必修	学校教育におけるデータサイエンス	①	
				選択	実践課題解決基本実習 I	①	
				選択	実践課題解決基本実習 II	①	
				選択	実践課題解決発展実習	①	
				選択	研修開発実習	①	
				選択	学校支援実習 I	①	
				選択	学校支援実習 II	①	
				選択	学校支援実習 III	①	
				選択	学校支援実習 IV	①	
				選択	学校支援実習 V	①	
				選択	学校支援実習 VI	①	
				選択	海外連携校実習 I	①	
				選択	海外連携校実習 II	①	
				選択	教育方法の開発と実践研究	①	
				選択	メンタリングと校内研修	①	
				選択	学校教育のアクションリサーチ	①	
				選択	教育実践課題解決研究 I（教育実践）	①	
				選択	教育実践課題解決研究 II（教育実践）	①	

				選択	教育実践課題解決研究Ⅲ(教育実践)	①			
				選択	教育実践課題解決研究Ⅳ(教育実践)	①			
2	准教授	川島 民子	R3.3	必修	ダイバーシティ教育の理論と実践	①	R3.3.31付け、人事交流により退職のため辞任(R3)		
				選択	実践課題解決基本実習Ⅰ	①			
				選択	実践課題解決基本実習Ⅱ	①			
				選択	実践課題解決発展実習	①			
				選択	授業実践基本実習Ⅱ	①			
				選択	ダイバーシティ教育基本実習	①			
				選択	特別支援実習	①			
				選択	フィールドワーク実習	①			
				選択	心理アセスメント実習	①			
				選択	ダイバーシティ教育発展実習	①			
				選択	海外連携校実習Ⅰ	①			
				選択	海外連携校実習Ⅱ	①			
				選択	スペシャルニーズ教育の理論と実践	①			
				選択	子どもの心の臨床心理学的理解と支援	①			
				選択	心理的アセスメントと子ども支援	①			
				選択	特別支援教育の臨床的探究	①			
				選択	幼年教育の理論と実践	①			
				選択	教育実践課題解決研究BⅠ(ダイバーシティ)	①			
				選択	教育実践課題解決研究BⅡ(ダイバーシティ)	①			
				選択	教育実践課題解決研究BⅢ(ダイバーシティ)	①			
選択	教育実践課題解決研究BⅣ(ダイバーシティ)	①							
合計(F)				後任補充状況の集計(G)					
辞任した教員数		担当科目数の合計(a)+(b)+(c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
2	人	必修	7 科目	必修	7 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	39 科目	選択	39 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	46 科目	計	46 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び( ) 書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計(D)+(F)		後任補充状況の集計(E)+(G)							
辞任等した教員数		担当科目数の合計(a)+(b)+(c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
3	人	必修	7 科目	必修	7 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	55 科目	選択	55 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	62 科目	計	62 科目	計	0 科目	計	0 科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D)+(F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{3}{28} = 10.71 \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和2年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

□ 人

該当なし

(注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。



## 6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の の 実 施 計 画
	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
  - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
  - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

## 7 その他全般的事項

<教育学研究科 高度教職実践専攻>

### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<div data-bbox="632 501 951 607" style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: auto;">該当なし</div>	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

### (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p style="margin-left: 20px;">a 委員会の設置状況</p> <p style="margin-left: 40px;">①専攻会議：研究者教員19名（学校経営力開発コース3名、教育実践力開発コース4名、授業実践力開発コース7名、ダイバーシティ教育力開発コース5名）と実務家教員11名、合計30名で組織</p> <p style="margin-left: 40px;">②滋賀大学教職大学院運営連絡会</p> <p style="margin-left: 40px;">③FD部会：4つのコースの研究者教員各1名と実務家教員1名の合計5名で組織</p> <p style="margin-left: 40px;">添付資料1 滋賀大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻会議規程</p> <p style="margin-left: 20px;">b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p style="margin-left: 40px;">令和3年度 滋賀大学大学院高度教職実践専攻会議 13回を予定 （定足数：30名の2/3以上の20名）</p> <p style="margin-left: 20px;">c 委員会の審議事項等</p> <p style="margin-left: 40px;">(1)教育課程の編成及び実施に関する事項 (2)教務及び学生指導に関する事項 (3)専攻担当の実務家教員の選考に関する事項 (4)その他専攻の運営に関する事項 (5)教職大学院の教育研究及び組織運営の方針、点検・評価に関する事項 (6)教職大学院の運営における連携協力に関する事項 (7)研究者教員及び実務家教員の資質能力の維持向上に関する事項</p> <p>② 実施状況</p> <p style="margin-left: 20px;">a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県及び市町教育委員会、連携協力校との運営連絡会議を実施</li> <li>・ 教職大学院拡充開設にあたって、各コースの特色についての相互理解</li> <li>・ 理論と実践の往還についての各科目担当者の相互確認</li> <li>・ 授業評価アンケート及びその効果的な活用とFD意見交換会の実施</li> <li>・ 新任教員のための研修会の実施</li> <li>・ 授業研修会・授業公開、研究会の実施</li> <li>・ 各教職員が行ったFD・SD活動を登録するフォームをウェブ上に設置して集約</li> </ul> <p style="margin-left: 20px;">b 実施方法</p>
---

- ・運営連絡会議、専攻会議、FD部会については、コロナ禍により対面とオンラインのハイブリッドで開催
- ・授業研修会については状況に応じて判断する。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

4月2日(金)に前年度FD部会との引継（4人）、4月7日(水)教職大学院運営連絡会議（50人）、4月14日(水)第1回専攻会議（24人）、4月27日(火)第1回FD部会（5人）、4月28日(水)第2回専攻会議（25人）

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・ アンケート結果をふまえた授業の自己評価を授業担当者全員で共有し、授業改善
- ・ アンケート結果の概要と授業の自己評価をまとめた授業評価報告書を学生に開示
- ・ FD意見交換会で出された学生の声に基づいて学校実習の実施方法を改善
- ・ FD意見交換会で出された学生の声を活かして教育課題解決研究の指導内容を充実

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

実施有。春学期の通常科目は7月下旬から8月上旬、夏期集中科目は9月。秋学期の通常科目は1月下旬から2月上旬、冬期集中科目は3月上旬に全科目を対象に実施。

b 教員や学生への公開状況、方法等

教務システムを用いて教員と学生に公開し、教員の授業改善に関する対策を学生に説明するFD説明会を実施。

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

教職大学院の教育研究、及び組織運営の方針や点検・評価、運営における連携協力等を目的として、平成30年4月に滋賀大学教職大学院運営連絡会を設置し、科目運営や実習の在り方等についての意見交換や協議を行う場として実質的に機能させてきた。このことを受け、平成31年4月より、教育課程の編成及び実施、改善に向けての協議を行う教育課程連携協議会の機能を、滋賀大学教職大学院運営連絡会の目的として明確に位置づけた。

添付資料2 滋賀大学教職大学院運営連絡会規程

添付資料3 滋賀大学教職大学院運営連絡会委員名簿（令和3年5月1日現在）

b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

年間2回開催

令和3年度 第1回：令和3年4月7日(水)10時30分～12時00分 第2回：令和4年3月開催予定

c 委員会の審議事項等

- (1) 教職大学院の教育研究及び組織運営の方針に関する事。
- (2) 教職大学院の教育研究及び組織運営の点検・評価に関する事。
- (3) 教職大学院の運営における連携協力に関する事。
- (4) 教職大学院の教育課程の編成及び実施に関する事。
- (5) その他教職大学院の運営について必要な事項に関する事。

d その他

② 審議状況

a 審議した内容（第1回 令和3年4月）

- ・組織・運営について
- ・カリキュラム・研究について
- ・実習について
- ・教務関係について
- ・その他、質疑応答

添付資料4 令和3年度第1回教職大学院運営連絡会議題

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況  
特になし。

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況  
特になし。

#### (4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

授業科目の開設、教育課程の編成、連携協力校、入試及び教育委員会との連携等について概ね設置計画どおりに開設でき、現時点においては満足な達成状況にあると考える。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・令和3年12月27日滋賀大学自己点検・評価報告会で教職大学院についての組織評価を報告

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開予定（令和4年1月末を予定）

③ 認証評価を受ける計画

（専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院については、機関別認証評価と分野別認証評価それぞれの受審計画について記載してください。）

- ・令和3年度に機関別認証評価、評価機関（一般財団法人教員養成評価機構）の評価を受審予定。
- ・令和7年度に分野別認証評価を受けるべく、学内で検討中。

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

#### (5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和3年度）

a 公表予定の有無 [  有 ・  無 ]

《 a で「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [  調査結果公表後1ヶ月以内 ・  公表後2～3ヶ月以内 ・  公表後3ヶ月以降 ]

c 公表方法 [  ウェブサイトへの掲載 ・  その他 ( ) ]

《 a で公表「無」の場合》

d 公表しない理由 [ ( ) ]

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。